

＼聴くだけでは終わらせない！／
約1万件のリアルボイスを、これからのまちづくりに
【アンケート調査結果公表】

北九州市では、昨年度、女性のリアルな視点や生の声を丁寧に把握し、今後の政策に反映するため、「Woman's リアルVOICE プロジェクトアンケート調査」を実施し、このたび、その調査結果を取りまとめました。

アンケートでは、日々の暮らしの中で感じている困りごとや不便さだけでなく、その背景にある思いや、行政への期待、暮らしやすいまちに向けた具体的な提案など、多くの声が寄せられ、今後の施策を検討する上で重要な視点を得ることができました。

今後も市民の皆さまの声を大切にしながら、「女性にコンフォートなまちづくり」を進め、その先にある、誰もが自分らしく暮らし続けられるまちの実現を目指します。

ぜひ、周知のほどよろしくお願いいたします。

1. 調査目的

女性のリアルな視点や生の声を政策に反映させ「女性にコンフォートなまちづくり」を進め、それにより「市民みんなにとってコンフォートなまち」につながることを目指すため、様々なライフステージの女性の現状やニーズ等の調査・分析を実施する。

2. 調査対象

北九州市内在住の18歳以上の女性

3. 調査方法

インターネット調査(Web アンケート)

郵送調査(住民基本台帳から2,000人を無作為抽出)

4. 回答数

1,677件 自由記述回答件数 約10,000件

5. 調査結果

市のホームページに掲載

URL:https://www.city.kitakyushu.lg.jp/contents/15400189_00005.html

Woman's リアルVOICE プロジェクト アンケート調査結果

令和8年8月

聴くだけでは終わらせない 約1万件のリアルボイスを、これからのまちづくりに

北九州市では、昨年度、女性のリアルな視点や生の声を丁寧に把握し、今後の政策に反映するため、「Woman'sリアルVOICEプロジェクトアンケート調査」を実施しました。日々の暮らしや仕事の中で、一人ひとりが感じている「モヤモヤ」や漠然とした不安や不足感。こうした思いを、個人の中だけに留めず、リアルな「声」として集め、見える化すること。そして、こうしたプロセスを通じて、これまで個々に感じられてきた問題を、市として改めて課題として自覚的に捉え、広くまち全体に共有し、具体的な取組につなげていく。その出発点となることが、本調査の大きな目的です。

本調査では、市内在住の女性1,677人から回答をいただき、自由記述欄には約1万件に及ぶ声が寄せられました。仕事、子育て・介護、健康、地域とのつながり、都市環境など、日々の暮らしの様々な場面について、多くのリアルな声をうかがうことができました。

また、寄せられた声からは、日々の暮らしの中で感じている困りごとや不便さだけでなく、その背景にある思いや、行政への期待、暮らしやすいまちに向けた具体的な提案など、今後の施策を検討する上で重要な視点を得ることができました。

北九州市では、こうしたリアルな声を踏まえ、先日発表した「らしさプロジェクト」を着実に推進するとともに、各局が進める様々な施策の企画・実施・改善に幅広く生かしてまいります。

今後も市民の皆さまの声を大切にしながら、「女性にコンフォートなまちづくり」を進め、その先にある、誰もが自分らしく暮らし続けられるまちの実現を目指します。

1. 調査目的

女性のリアルな視点や生の声を政策に反映させ、「女性にコンフォートなまちづくり」を進め、それにより「市民みんなにとってコンフォートなまち」につながることを目指すため、様々なライフステージの女性の現状やニーズ等の調査・分析を実施する。

2. 調査対象

北九州市内在住の18歳以上の女性

3. 調査方法

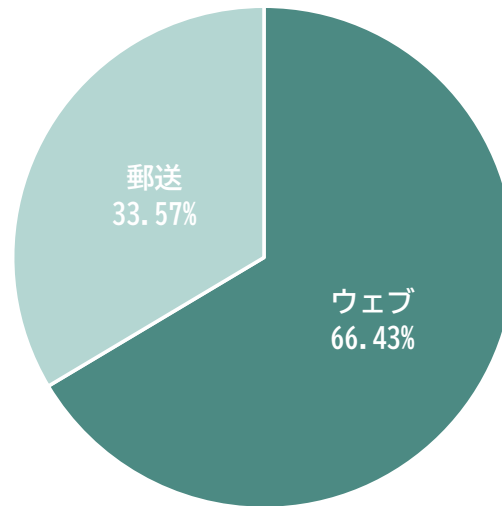
インターネット調査（Webアンケート）

郵送調査（住民基本台帳から2,000人を無作為抽出）

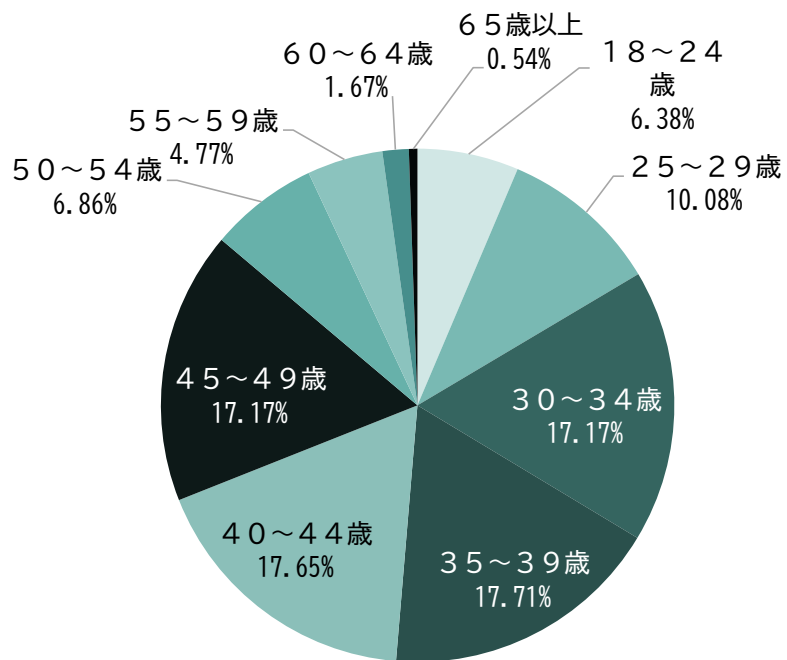
4. 回答数

1,677件 自由記述回答件数 約10,000件

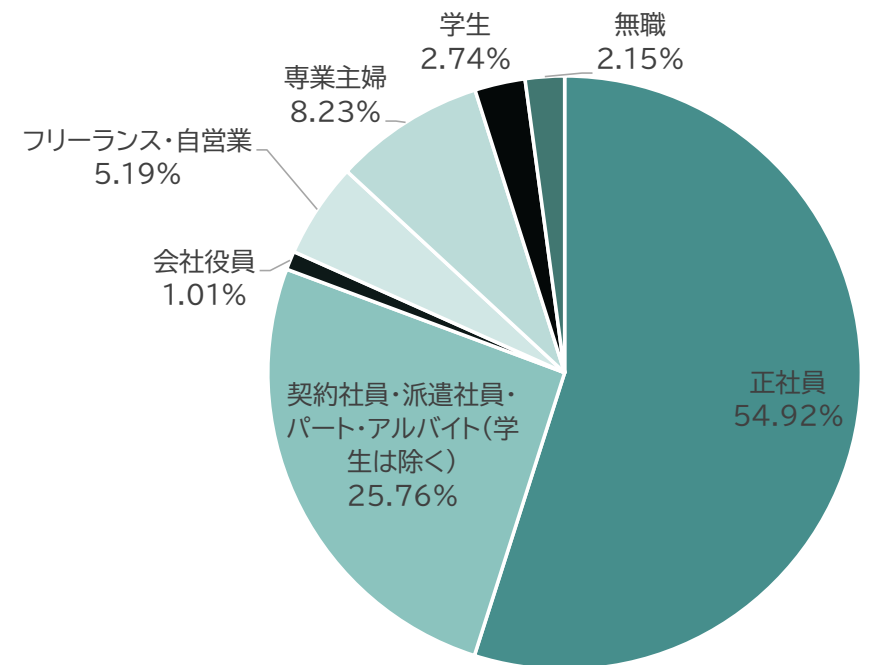
<回答方法>



<回答者年齢>



<現在の職業(雇用形態)>



都市サービスについて

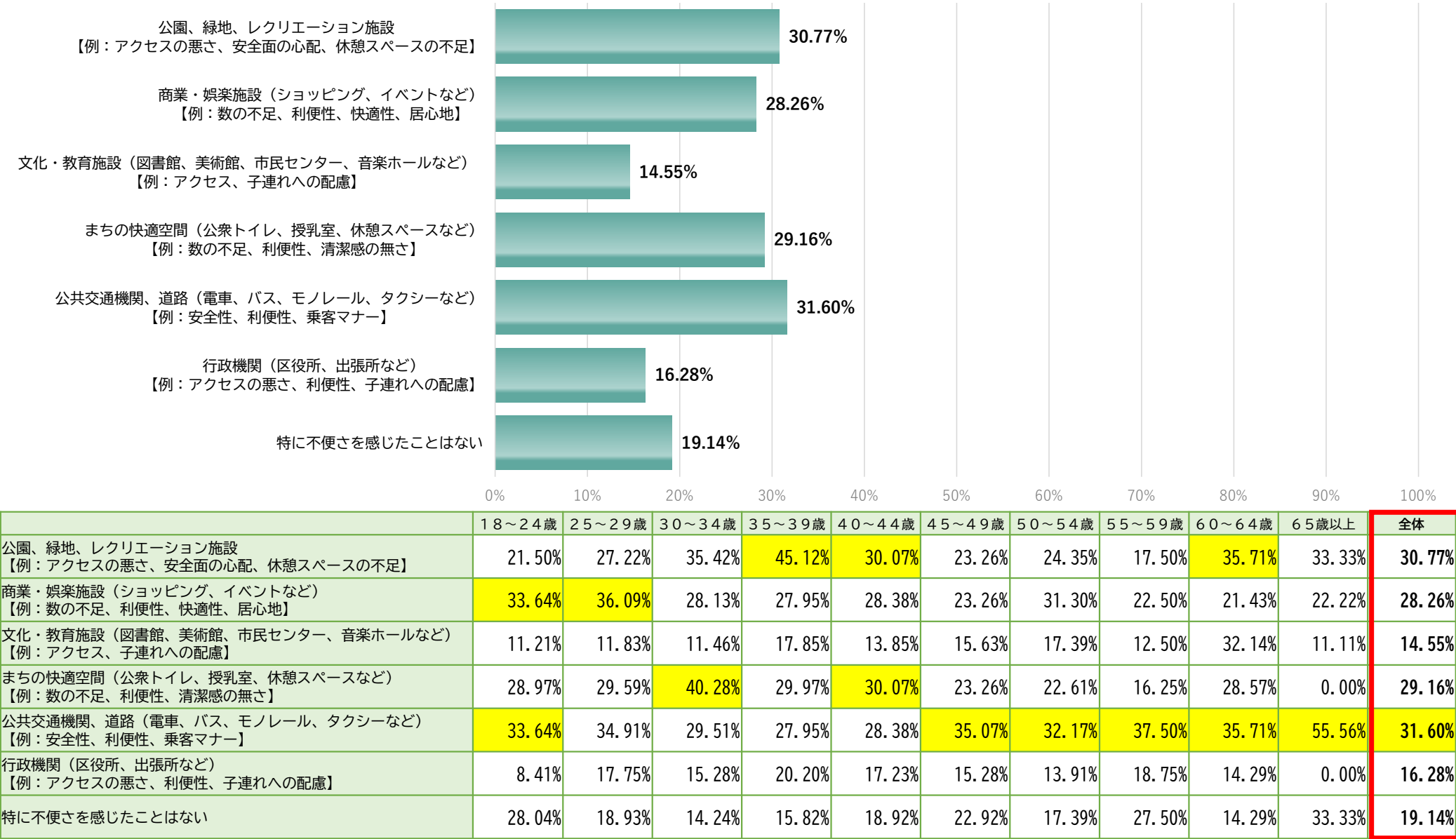
施設整備だけでなく、“使いやすさ”と“安心感”が都市サービスの鍵に

都市サービスに関しては、公共交通や道路、公園、休憩スペースなど身近な施設や都市環境について、多くの女性が不便さや使いづらさを感じていることがうかがえる結果となりました。特に、夜道や歩道、人通りの少ない場所への不安など、安全・安心に関する課題に加え、公共交通の利便性や、公園、授乳室、休憩スペースなどライフステージに応じた都市環境へのニーズが高いことが読み取れます。

また、子育てや移動、行政手続など日常生活の様々な場面で利便性の向上を求める声が多く、女性の視点を取り入れた都市サービスや都市環境の整備が十分ではないこともうかがえます。これらの結果からは、安全性や利便性、快適性を高めるハード・ソフト両面の取組を進めるとともに、多様なライフステージや生活様式に対応した、誰もが安心して暮らし、利用できる都市サービスの充実が重要であることが示されています。

さらに、女性や子育て世帯をはじめ、多様な市民の視点を都市サービスへ継続的に反映していくためには、利用者の声を取り入れながら、安全・安心で利用しやすい公共空間や交通環境、行政サービスの充実に向け、多面的な取組を進めていくことが重要であることが示唆されます。

Q5. 身近な施設や都市環境について、不便さや不快感を感じたり、困ったりすることがあるものを選んでください。（複数選択可、3つまで）



Q6. 身近な施設や都市環境に関するモヤモヤについて、具体的なエピソードや体験談、「もっとこうだったらいいのに」と感じること

①

公園のトイレが古くて暗く、子どもだけで行かせるのが怖い。結局、商業施設のトイレを探して移動することが多い。

②

夏は暑すぎて外で遊ばず、室内遊び場は少なくて混雑している。屋根付き公園や無料で遊べる屋内施設をもっと増やしてほしい。

③

公園や道路の草が放置されていて、虫やマダニが心配で子どもを遊ばせられない。管理されていない感じが街全体にある。

④

授乳室やオムツ替えスペースが少なく、あっても暑い・狭い・汚いなど使いにくい。父親が使えない施設も多く、子育てしづらさを感じる。

⑤

バスの本数が少なく、タクシーも捕まりにくい。車がないと移動できず、子連れや高齢者にはかなり不便。

⑥

バスの本数が少なく、乗り継ぎも悪い。高齢者や子連れ世帯にとっては車がないと生活できず、将来的な移動不安が大きい。

⑦

市営バスの本数が住み着いて10年程でかなり減っていて困る。なるべく利用しようと家族で自家用車ではなくあえてバスに乗ったりしているが本数が少なく驚いている。

⑧

道路渋滞や歩道の狭さ、交通マナーの悪さへの不安が強く、通学や子どもの移動時の安全面にストレスを感じる。

⑨

道路がデコボコして自転車で走りにくかったり、急に歩道がなくなり車道を歩かなくては行けない所がありこわい。

⑩

ひとり親関係の手続きで、住所や税の手続きだけでも複数窓口を回され、その都度説明が必要で大変。

⑪

区役所の職員によって説明が異なる。手続きの説明を統一してほしい。

⑫

子供がいると手続きが落ち着いてできない。保育園の申込は役所に行く時に子供を連れて行かないと行けない人が多いと思うのでネットでできるようになると助かる。

⑬

黒崎駅の、井筒屋あたりをどうにかしてほしい。映画館なども、欲しい

⑭

幅広い年齢層に対応できる商業施設があるとありがたいです。

⑮

過去に比べて商業施設が減り、学生が遊べる場所も減ったと思う。

⑯

若い世代が楽しめる場所や、安心して集まれる空間が少ない。街が暗く古い印象で、買い物や文化面でも福岡市に流れてしまう。

⑰

整備されている公園とされていない公園の差が激しすぎる。規模の小さい公園も大事にしてほしい。人気の公園にみんな殺到し、遊びが激しくなり安全面も怖く幼児を連れて行きづらい。

⑱

公園でも「犬の散歩禁止」「ボール遊び禁止」など書かれていて、結果誰も使用していない…

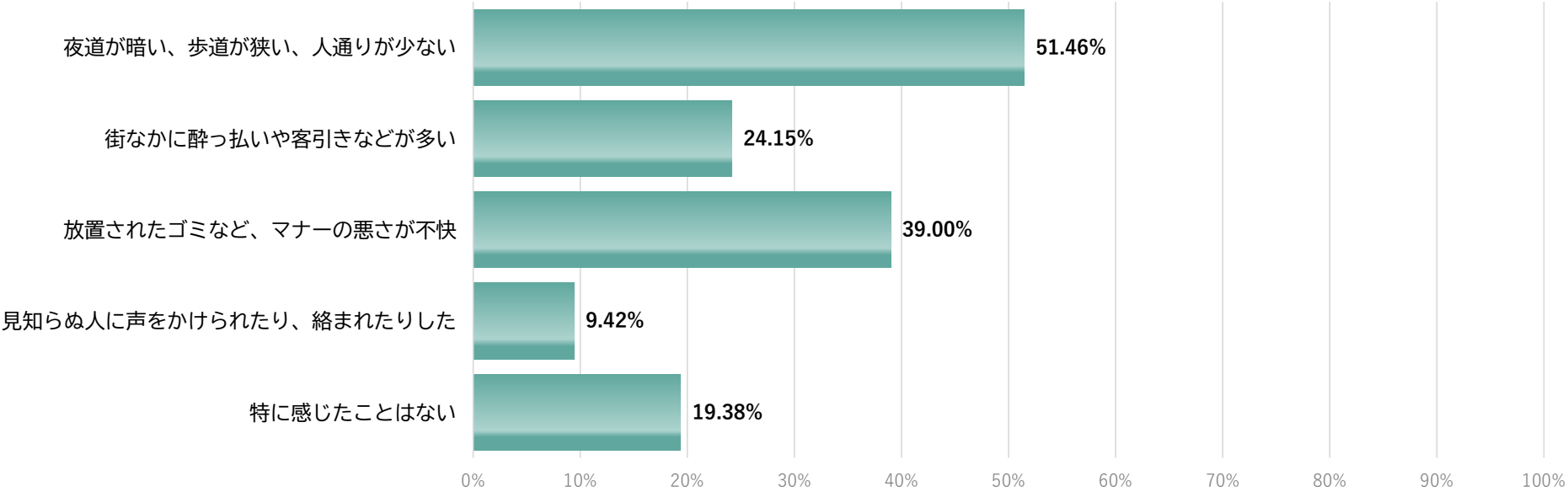
⑲

学生が勉強をする場所を増やして欲しい。広いスペースでは無く、数を増やして欲しい。

⑳

図書館の駐車場の数を増やしてほしい。もっとゆっくり本を選びたいし、子どもとゆっくり本を読んだり併設のカフェも利用したいのに、駐車場に限りがあり、時間も制限があるため利用しにくい。

Q7. 防犯や安全に関して、不安を感じる場面はありますか？街なかや自宅近隣などを歩いていて、恐怖・危険・不快を感じる場面があるか、選択してください。（複数選択可）



	1 8 ～ 2 4 歳	2 5 ～ 2 9 歳	3 0 ～ 3 4 歳	3 5 ～ 3 9 歳	4 0 ～ 4 4 歳	4 5 ～ 4 9 歳	5 0 ～ 5 4 歳	5 5 ～ 5 9 歳	6 0 ～ 6 4 歳	6 5 歳以上	全体
夜道が暗い、歩道が狭い、人通りが少ない	55.14%	49.70%	52.43%	50.17%	56.08%	51.04%	47.83%	41.25%	46.43%	66.67%	51.46%
街なかに酔っ払いや客引きなどが多い	32.71%	36.09%	25.69%	16.50%	20.61%	22.22%	28.70%	25.00%	25.00%	11.11%	24.15%
放置されたゴミなど、マナーの悪さが不快	28.04%	38.46%	41.67%	37.04%	38.51%	39.58%	46.09%	41.25%	42.86%	33.33%	39.00%
見知らぬ人に声をかけられたり、絡まれたりした	18.69%	14.79%	12.50%	10.44%	8.11%	4.86%	3.48%	5.00%	0.00%	0.00%	9.42%
特に感じたことはない	22.43%	20.12%	17.01%	25.25%	17.57%	18.06%	15.65%	18.75%	14.29%	22.22%	19.38%

Q8. 地域の防犯や安全に関するモヤモヤについて、具体的なエピソードや体験談、「もっとこうだったらいいのに」と感じること

①

街灯が少なく暗い。夜道を歩く時に怖い。大通りから脇道に入ると一気に暗くなる。

②

歩道が途中で無くなっていたり、歩道の真ん中に電柱があったりして、一時的に車道にはみ出るしかないところがある。小学校の通学路でも存在するので危なすぎる。

③

学校の近くの通りが夜になると人通りが少なく、街灯も少ない。街路樹により、車道から歩道が見えにくく遅い時間では少し怖く感じます。

④

住宅街ほど歩道の区画がなさすぎる。ただでさえ運転が荒いと感じるのに歩道と車道を色分けや白線だけと言うのはすごく危険。

⑤

スピード違反、路上駐車と危険がたくさんすぎて子供1人で歩かせるのが不安すぎる。

⑥

小倉駅周辺の客引きは本当にしつこいと思います。断っているのにしつこくついてきます。

⑦

街なかに酔っ払いや客引きが多く、歩きタバコをしながら酔っぱらってふらふらあるいている人や、歩きながら話かけられることが多い。

⑧

客引きが道の真ん中に立っていて邪魔。若い人たちが朝まで飲み明かして、街中で動けなくなっていたり、吐いていたり、たむろしていたりするのを見ながら仕事に行くのは気持ちが悪い。

⑨

小倉駅前の商店街を歩いていたら客引きや酔っ払いに絡まれ怖い思いをした。

⑩

小倉駅からのお店街は特に客引きが多い。ナンパも多い。通行の邪魔。品がない。駅も汚い。

⑪

住宅地などでゴミ出しのマナーが悪くカラスが荒らして困っています。

⑫

市外から引っ越してきましたが北九州市は歩きタバコとゴミのポイ捨てが多すぎてびっくりしました。

⑬

人通りが少ない場所は歩きタバコが目立つ。そのため吸い殻のポイ捨てが多い。犬が誤飲した際、治療が大変。

⑭

町中にゴミが落ちている。子供達がこんなのダメだね…と言っている姿もよく見ます。モラルがない大人、酔っ払うとちゃんとできない大人がいて困る。

⑮

魚町銀天街は夜から朝方にかけてゴミが多く、臭いがする。酔っ払いの方もいるため女性や子どもは安全性が気になり歩きづらい。

⑯

大通りは明るく、車通り、人通りもあるのですが、一本入ると途端に街灯が少なく、人通りも少ないので、子どもが部活で帰宅するときなど、冬は特に真っ暗な中帰ってくるので心配。

⑰

通学路で児童が見知らぬ人に声をかけられていた。朝は見守りがあるが下校が危ない。通学路には監視カメラを設置して欲しい。

⑱

全く街灯がないところがあるので夜道を安心して歩けません。知らないおじさんに絡まれることが多いです。

⑲

子どもがお友だちと公園に遊びに行き帰宅後に『変なおじさんが追いかけてきた』『タバコやお酒のゴミが砂場にたくさんあった』などの話を聞くことが多く、その度に不安になります。

⑳

女性が安心できるようにして欲しい。付き纏いまでいかなくてもじっと見られる、たまにぶつかってくる男性がいる。

キャリア・ライフについて

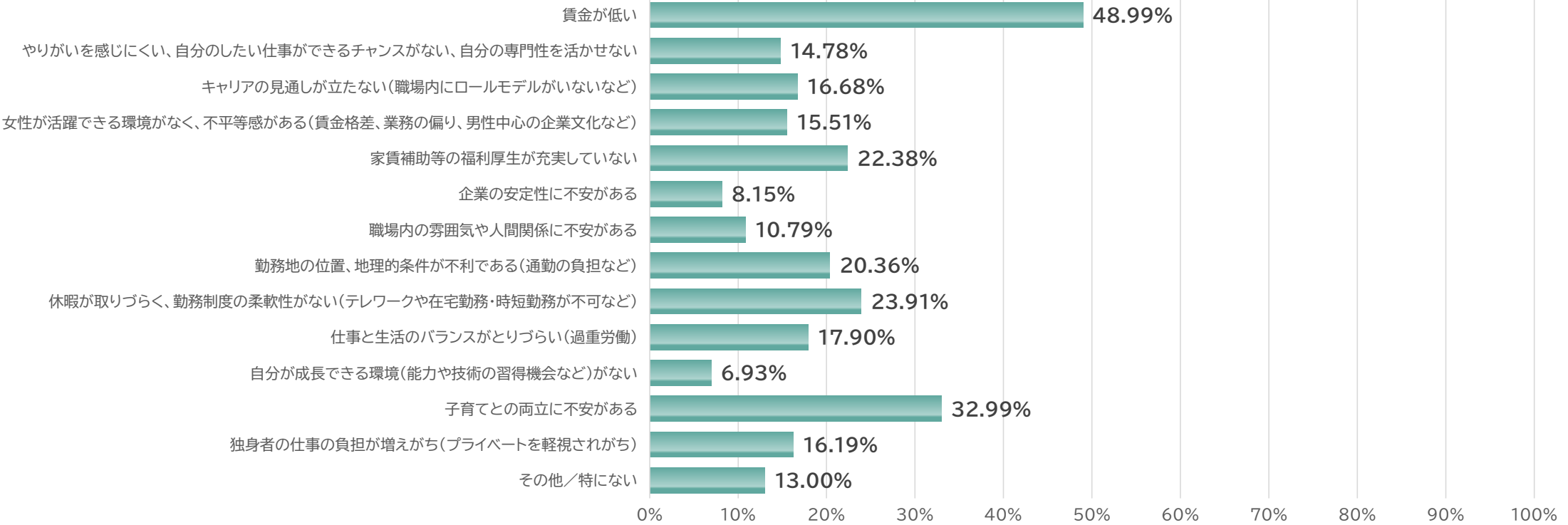
制度があっても使えない～女性のキャリアを左右する職場風土

女性のキャリア形成や自己実現の継続には、就労環境や経済面だけでなく、家庭や職場における役割分担、社会的な価値観など、様々な要因が複合的に影響していることがうかがえる結果となりました。特に、女性の非正規雇用比率の高さや、妊娠・出産・育児によるキャリアの中断が男女間賃金格差につながり、多くの女性が賃金の低さを実感している状況が読み取れます。

また、各種制度は整備されつつあるものの、「家事・育児は女性の役割」という固定的な性別役割意識が依然として根強く、制度を十分に活用できる環境には至っていないこともうかがえます。これらの結果からは、企業における職場環境や制度運用の見直しに加え、男性を含めた意識改革や職場風土の醸成を進め、誰もがライフステージに応じて希望する働き方や生き方を選択できる環境づくりが重要であることが示されています。

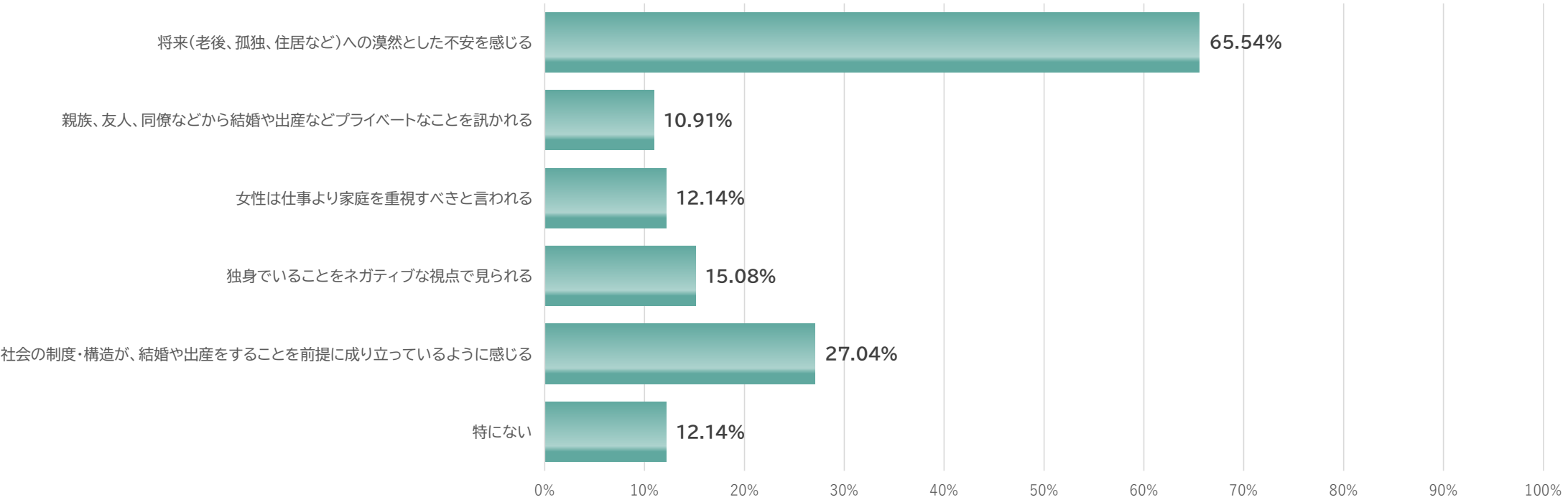
さらに、女性の自己実現と家事・育児負担の女性偏重の改善を両立するためには、企業だけでなく、家庭・地域・行政が連携し、固定的な性別役割意識の変革や男性の家庭参画の促進、仕事と家庭の両立を支える社会的支援の充実など、多面的な取組を進めていくことが重要であることが示唆されます。

Q9. 現在働いている方、過去に働いたことがある方へお尋ねします。職場内で、支障になる（なった）と感じること、困り事、モヤモヤ感じることを選択してください。（複数選択可、5つまで）



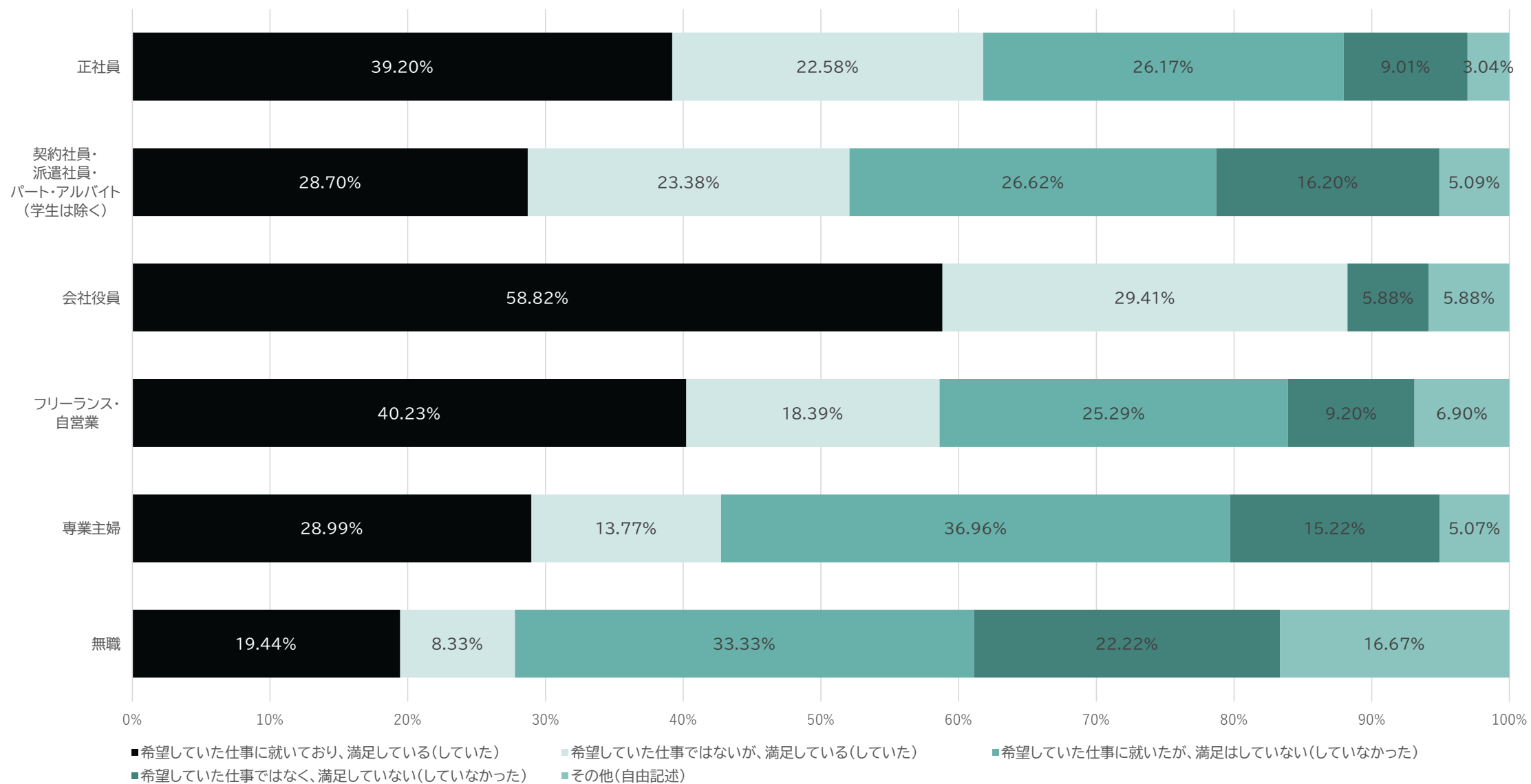
	18～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65歳以上	全体
賃金が低い	49.23%	49.70%	52.43%	48.81%	52.03%	51.39%	33.91%	37.50%	46.43%	55.56%	48.99%
やりがいを感じにくい、自分のしたい仕事ができるチャンスがない、自分の専門性を活かせない	15.38%	14.97%	14.58%	10.51%	13.85%	16.32%	23.48%	15.00%	14.29%	22.22%	14.78%
キャリアの見通しが立たない(職場内にロールモデルがないなど)	13.85%	14.37%	21.88%	19.66%	16.22%	16.32%	13.04%	8.75%	3.57%	0.00%	16.68%
女性が活躍できる環境がなく、不平等感がある(賃金格差、業務の偏り、男性中心の企業文化など)	10.77%	12.57%	12.85%	17.29%	13.18%	17.71%	17.39%	22.50%	25.00%	22.22%	15.51%
家賃補助等の福利厚生が充実していない	20.00%	31.74%	27.78%	23.05%	23.99%	18.40%	13.91%	10.00%	3.57%	22.22%	22.38%
企業の安定性に不安がある	6.15%	5.99%	6.60%	6.78%	11.15%	10.76%	8.70%	6.25%	3.57%	0.00%	8.15%
職場内の雰囲気や人間関係に不安がある	13.85%	6.59%	15.28%	11.86%	9.46%	10.42%	6.96%	11.25%	0.00%	22.22%	10.79%
勤務地の位置、地理的条件が不利である(通勤の負担など)	12.31%	19.76%	26.04%	26.44%	18.92%	14.93%	14.78%	15.00%	25.00%	33.33%	20.36%
休暇が取りづらく、勤務制度の柔軟性がない(テレワークや在宅勤務・時短勤務が不可など)	13.85%	22.75%	28.47%	21.02%	30.41%	20.14%	20.87%	23.75%	17.86%	33.33%	23.91%
仕事と生活のバランスがとりづらい(過重労働)	26.15%	17.96%	17.36%	19.32%	17.91%	15.97%	19.13%	13.75%	21.43%	0.00%	17.90%
自分が成長できる環境(能力や技術の習得機会など)がない	4.62%	7.78%	5.90%	7.12%	6.08%	7.64%	7.83%	6.25%	17.86%	0.00%	6.93%
子育てとの両立に不安がある	21.54%	36.53%	49.31%	48.47%	33.11%	18.06%	15.65%	10.00%	7.14%	0.00%	32.99%
独身者の仕事の負担が増えがち(プライベートを軽視されがち)	15.38%	19.16%	13.54%	17.29%	12.84%	16.32%	26.09%	12.50%	14.29%	33.33%	16.19%
その他／特にな	16.92%	11.38%	7.99%	9.49%	11.82%	15.28%	20.87%	27.50%	17.86%	11.11%	13.00%

Q10. 女性の人生において（職場内に限らず）感じる疑問や違和感を選択してください。（複数選択可、3つまで）

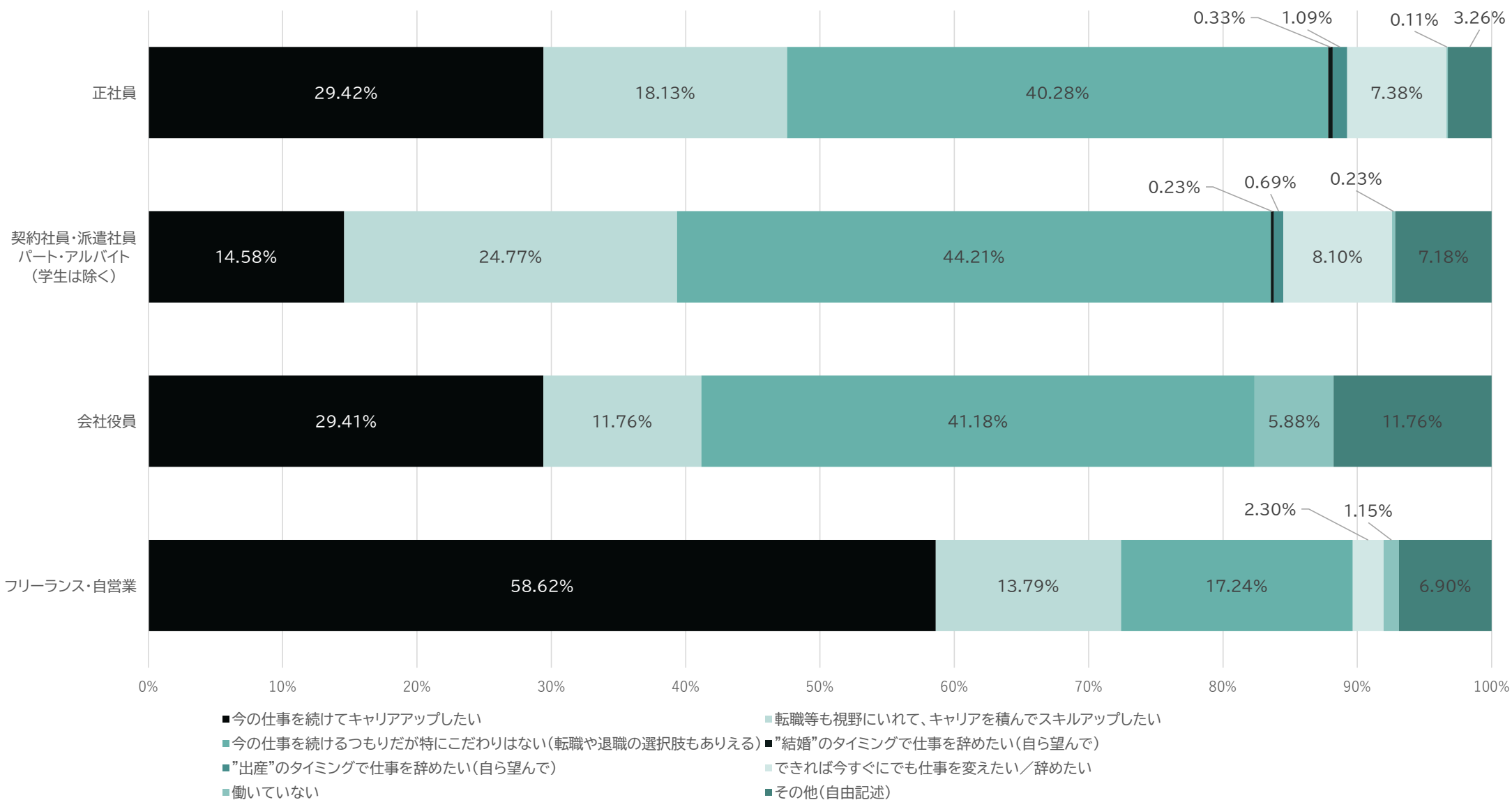


	18～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65歳以上	全体
将来(老後、孤独、住居など)への漠然とした不安を感じる	67.69%	61.68%	64.24%	63.73%	66.89%	65.28%	73.04%	63.75%	75.00%	77.78%	65.54%
親族、友人、同僚などから結婚や出産などプライベートなことを訊かれる	15.38%	20.96%	16.67%	12.88%	6.76%	6.25%	3.48%	5.00%	3.57%	0.00%	10.91%
女性の仕事より家庭を重視すべきと言われる	7.69%	10.18%	15.28%	11.53%	13.18%	11.46%	11.30%	10.00%	14.29%	11.11%	12.14%
独身でいることをネガティブな視点で見られる	20.00%	23.35%	14.58%	15.25%	13.18%	13.19%	13.91%	15.00%	7.14%	0.00%	15.08%
社会的制度・構造が、結婚や出産をすることを前提に成り立っているように感じる	15.38%	26.35%	25.69%	26.44%	27.70%	26.04%	35.65%	30.00%	39.29%	22.22%	27.04%
特になし	21.54%	12.57%	12.85%	12.54%	9.46%	13.19%	10.43%	8.75%	10.71%	11.11%	12.14%
その他	3.08%	4.19%	7.64%	9.15%	9.46%	6.25%	12.17%	15.00%	7.14%	11.11%	8.15%

Q11. 現在（または過去）の、仕事に対する満足度を教えてください



Q12. 現在のあなたの仕事について、今後の意向を教えてください。



Q14. キャリアや仕事に関するモヤモヤについて、具体的なエピソードや体験談、「もっとこうだったらいいのに」と感じること

①

資格習得してキャリアを積んで来たが出産し、育児し始めたが出来れば在宅に近い形で仕事がしたい。

②

両親の介護が必要になった時に、正社員で働いていたが両立できなくなり辞めてしまいました。それぞれの状況に合わせて柔軟に勤務時間などが選べるようになると良いと思います

③

病児保育が少なく休みをとる為、仕事の信頼が保てない。休校や学校の行事が平日で休みをとらざるを得なくなる。

④

現在時短勤務をしているが業務量や責任は時短ではない職員と変わらず、むしろ経験がある分業務量が通常の職員よりも多いが、給与は時間分カットされており不満。

⑤

子どもの呼び出しで遅刻や早退、急な休みなど、しょうがないけど、申し訳ない気持ちになり、でも子どもも心配で、気持ちが板挟み状態

⑥

子供が居ると、基本正社員の拘束時間働くのは無理。となると、賃金の低いパートになる。今の時給は独身で正社員の時の約1/3。同じ私なのに働ける時間が違うだけで、こうも違うのかと悲しくなる。もちろん専門性も活かせず。

⑦

賃金が総じて低く、女性は特に職業の選択肢が少ない。ネットで「さす九」と揶揄されている通り、男性の男女平等に対する意識が低い人が多く、「女性はサポート役」という感覚が色濃い。

⑧

非正規雇用で働いているので、見通しが無い。不平等と思えることが増えると、モヤモヤが増える。

⑨

ロールモデルとなる人物がおらず、これからのキャリアをイメージできない。そのため目標設定が難しい。評価制度にも大きな不満がある。

⑩

キャリアアップのため進学したいが、その間に収入がなくなってしまう授業料や入学金等の費用もかかるため補助や支援があれば助かる。

⑪

学びたくても、学べないという環境が多い気がします。まず、少額から学べる講座などが多くないと思います。

⑫

非正規雇用には研修の機会が与えられず、自費でリスケリングをしなければならない。

⑬

夫と同じ研究職についていたが、子供が3人になり、仕事と家庭の両立に行き詰まった時に、自然と妻の私が仕事を諦め退職した。キャリアを諦めたことに納得するのに6年くらいかった。

⑭

デザイン関連の仕事がしたかったが地元で求人がほとんどなく上京することになった。

⑮

女性だから…と昇進や仕事の役割分担などでアンコンシャスバイアスがかかる

⑯

会社の女性幹部社員にあがった人たちが全員独身子なし社員で、出産した仕事のできる社員はあがれていないのを見ていて何とも言えない気持ちです。

⑰

輝く女性と言って家事と仕事を100%両立する人を持ち上げたりやたら取り上げること。そんなにフルで仕事をしたりしないと女性はダメなのか？ 男性でそんな取り上げ方をされる人はいない。

⑱

出産育児で休むたびに周りに置いていかれる孤独感を感じる。仕事復帰しても、子どもの体調で休みをいただく事が多く謝ってばかりいる

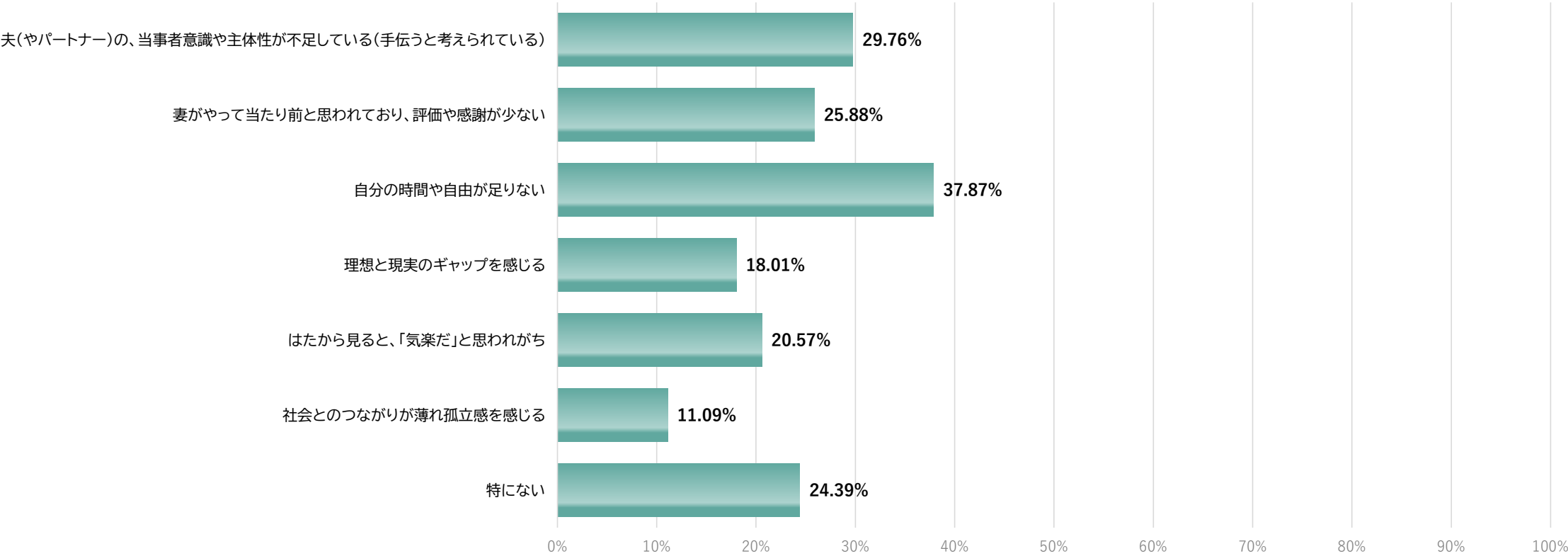
⑲

仕事で心配で子供を望むことをためらう。お金、キャリアの断絶、子供が生まれた後の職場復帰の大変さ、日常で余裕がなくなり家族仲が悪くなることへの不安。

⑳

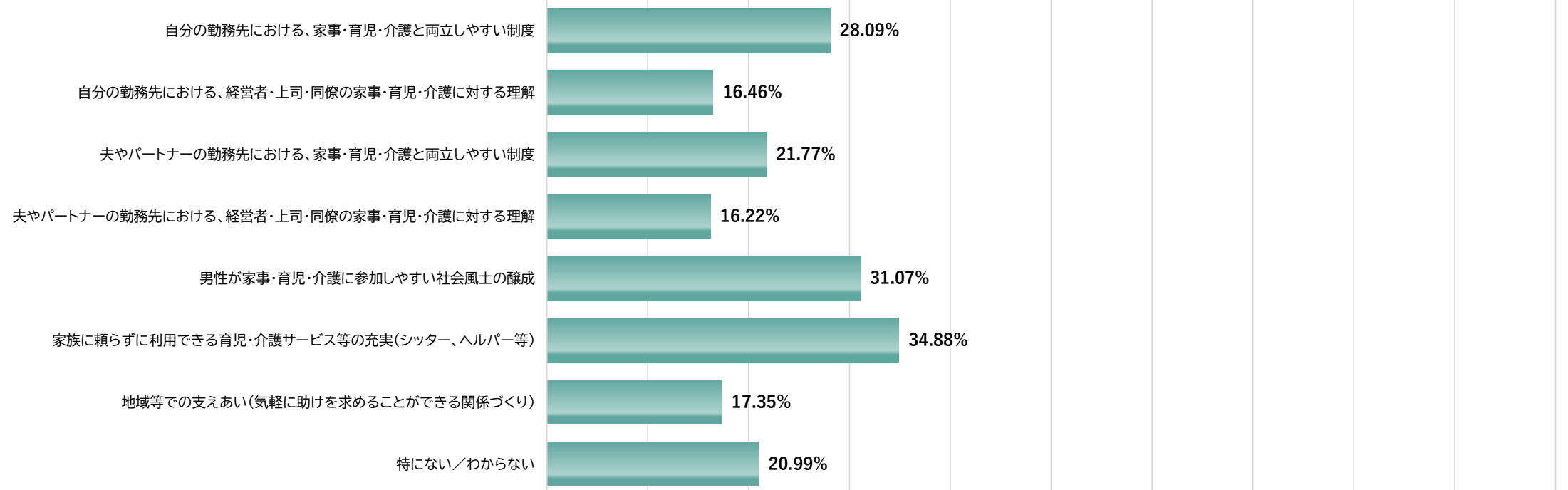
『結婚したのに仕事を続けるのか』『女性は子供を産むのが1番！』というような言葉を普通に投げかけられる。

Q15. 家庭における家事・育児・介護に関して感じるモヤモヤを教えてください。（複数選択可、3つまで）



	1 8～2 4歳	2 5～2 9歳	3 0～3 4歳	3 5～3 9歳	4 0～4 4歳	4 5～4 9歳	5 0～5 4歳	5 5～5 9歳	6 0～6 4歳	6 5歳以上	全体
夫（やパートナー）の当事者意識や主体性が不足している（手伝うと考えられている）	14.02%	20.12%	29.86%	33.33%	31.76%	30.21%	38.26%	36.25%	32.14%	22.22%	29.76%
妻がやって当たり前と思われており、評価や感謝が少ない	9.35%	16.57%	24.65%	24.58%	31.76%	30.21%	36.52%	22.50%	28.57%	33.33%	25.88%
自分の時間や自由が足りない	15.89%	34.91%	47.22%	48.15%	41.22%	31.94%	28.70%	30.00%	25.00%	22.22%	37.87%
理想と現実のギャップを感じる	14.95%	16.57%	23.26%	22.22%	19.93%	13.54%	8.70%	15.00%	14.29%	11.11%	18.01%
はたから見ると、「気楽だ」と思われがち	4.67%	18.34%	17.01%	17.17%	28.04%	27.08%	19.13%	21.25%	21.43%	33.33%	20.57%
社会とのつながりが薄れ孤立感を感じる	4.67%	11.24%	17.01%	12.46%	10.14%	7.64%	8.70%	10.00%	14.29%	22.22%	11.09%
特にない	60.75%	32.54%	20.83%	18.52%	16.22%	22.22%	27.83%	25.00%	28.57%	22.22%	24.39%
その他	3.74%	2.37%	2.43%	4.38%	4.39%	4.51%	0.87%	3.75%	0.00%	0.00%	3.46%

Q16. 家事・育児・介護等について、どのような支援や環境整備が不足していると感じますか？（複数選択可、3つまで）



	1 8 ～ 2 4 歳	2 5 ～ 2 9 歳	3 0 ～ 3 4 歳	3 5 ～ 3 9 歳	4 0 ～ 4 4 歳	4 5 ～ 4 9 歳	5 0 ～ 5 4 歳	5 5 ～ 5 9 歳	6 0 ～ 6 4 歳	6 5 歳以上	全体
自分の勤務先における、家事・育児・介護と両立しやすい制度	25.23%	31.36%	35.42%	29.97%	29.39%	22.22%	20.87%	22.50%	17.86%	22.22%	28.09%
自分の勤務先における、経営者・上司・同僚の家事・育児・介護に対する理解	13.08%	13.61%	17.36%	21.89%	16.22%	14.93%	13.91%	12.50%	17.86%	22.22%	16.46%
夫やパートナーの勤務先における、家事・育児・介護と両立しやすい制度	14.95%	22.49%	33.33%	26.60%	20.27%	14.58%	13.91%	16.25%	14.29%	11.11%	21.77%
夫やパートナーの勤務先における、経営者・上司・同僚の家事・育児・介護に対する理解	9.35%	13.02%	20.49%	22.56%	17.91%	12.15%	12.17%	7.50%	21.43%	0.00%	16.22%
男性が家事・育児・介護に参加しやすい社会風土の醸成	21.50%	30.77%	36.11%	35.69%	30.74%	23.61%	32.17%	33.75%	35.71%	33.33%	31.07%
家族に頼らずに利用できる育児・介護サービス等の充実（シッター、ヘルパー等）	17.76%	25.44%	37.50%	40.07%	37.16%	32.29%	37.39%	45.00%	35.71%	44.44%	34.88%
地域等での支えあい（気軽に助けを求めることができる関係づくり）	13.08%	11.83%	17.36%	14.81%	21.28%	19.44%	20.00%	17.50%	17.86%	22.22%	17.35%
特にない／わからない	41.12%	27.22%	13.19%	16.50%	16.89%	26.74%	20.87%	21.25%	17.86%	22.22%	20.99%

Q17. 家庭・家事・育児・介護に関するモヤモヤについて、具体的なエピソードや体験談、「もっとこうだったらいいのに」と感じること

①

育児をしながら働くことに理解がまだ追いついていないと感じる。特に正社員は子どものことでも早退や遅刻を許さない雰囲気が職場にある。

②

制度はあるのに、人手不足や上司の理解不足で実際には使えない。“制度だけ存在している”状態にモヤモヤする。

③

男性の育休制度はあるが、前例がない・評価が下がる・昇進に響くという空気があり、実際は取りづらい。

④

職場で介護の相談をした際、上司から「自分は介護があっても普通に仕事をしている。何が大変なのか」と言われ、上司にも職場にも失望した。

⑤

男性社員が5日だけ育休を取って“取得率”にカウントされることに違和感。本当に必要なのは、長期的に育児参加できる環境。

⑥

夫の育休以降の働き方について、長い期間仕事を80くらいのイメージの方が、とても価値があると思う。時短を長く、可能なら有給でとれる仕組みにして欲しい。

⑦

子供が熱を出した時、結局妻である自分しか休みをとれない。

⑧

夫は事前調整することなく残業や出張をします。私は、調整しなければ、それらが叶いません。社会全体として、女性が家事育児を担うと言うことが当たり前になっており、夫と夫の会社は、私の犠牲にフリーライドしていると感じます。

⑨

仕事が忙しいから、と平日の家事育児は全てママになり、パパはいいとこどり。ママはフルタイムで仕事をして、家事育児を一手に引き受けて自分時間が圧倒的になく、お風呂にもゆっくり入れない。

⑩

夫の、家事育児は「できるだけやる、善処する」のスタンスに不満を感じる。仕事と同じように、責任感を持ってほしい

⑪

共働きの時代に入っているのに、夫婦間での家の中の家事や育児の考え方、価値観が古いままなので、バランスが取れていくといいと思う。

⑫

女性が男性と同じように仕事をしているので男性が同じように家事をするのは当たり前だとおもっているが、男性が家事をすると褒められるのが理不尽だと思う。

⑬

病児保育や一時預かりが“ある”ことになっていても、予約が取れない・遠い・事前登録が必要で、結局は母親が仕事を休むしかない。

⑭

家事代行やベビーシッターを使いたい、料金が高すぎて現実的ではない。“頼れる制度”ではなく“余裕がある人向けサービス”になっている。

⑮

産後ケアやヘルパー制度は存在している、予約困難・利用条件の厳しさ・情報不足で、本当にしんどい時に使えない。

⑯

保育園・学童・長期休暇中の預け先が不足しており、小1の壁や夏休み問題で、仕事継続を諦めざるを得ない不安が大きい。

⑰

病児保育を増やしてほしい。数も受け入れ人数も少ない。ただの風邪で、元気がある時も熱があれば保育園に預けられないから仕事を休むしかない。

⑱

核家族化や転勤・移住により、“頼れる人がいない孤立育児”が深刻化している。

⑲

介護負担は依然として女性側に偏り、“家事は女性”“介護も女性”という固定観念が残っている。

⑳

育児などに対しては制度が手厚く感じるが、介護に対してはそう感じない。育児よりも介護の方がいつまで続くのか見通しのきかないものであり、経済的にも働く子供側(介護者)は負担が大きい。

ヘルスケアについて

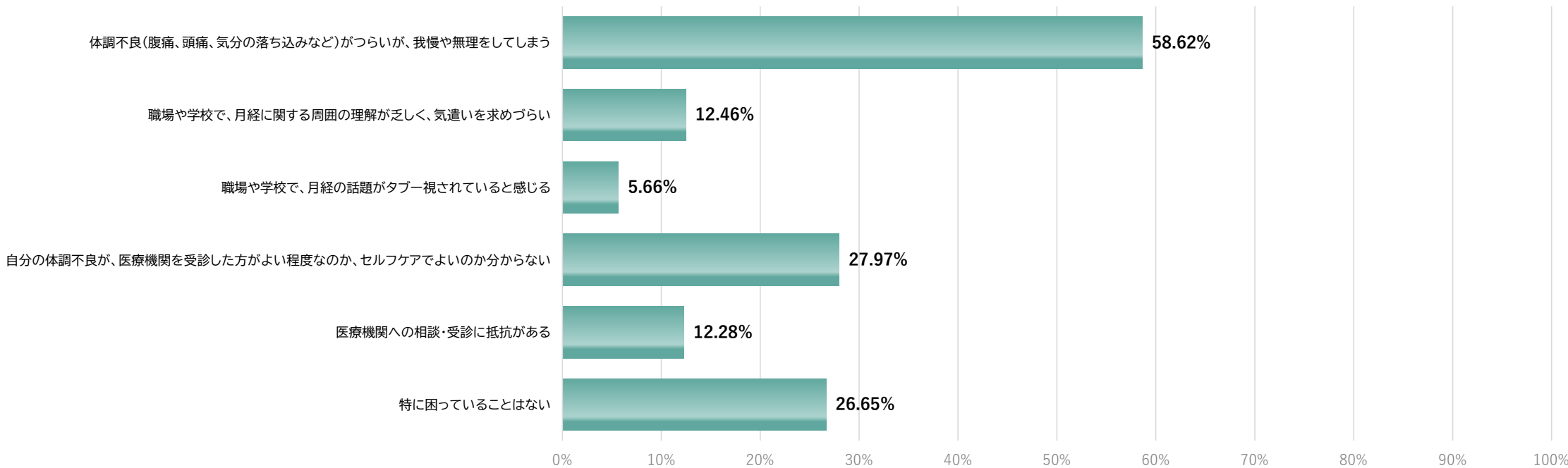
女性特有の健康課題、必要なのは“正しい情報”と“相談しやすさ”

ヘルスケアに関しては、月経やPMS、更年期など女性特有の健康課題について、多くの女性が日常生活や仕事への影響を感じながらも、我慢や無理をして生活している実態がうかがえました。また、受診の目安や相談先が分からず、医療機関への相談・受診をためらう人も少なくないことから、必要な支援につながりにくい状況が読み取れます。

一方で、女性の健康に関する情報はインターネットに依存する傾向が強く、学校や職場、相談窓口などから情報を得る機会に限られています。また、女性の健康課題に対する周囲の理解や配慮が十分とは言えず、フェムテック製品・サービスの認知・利用も低い一方で、関心は高いことがうかがえます。

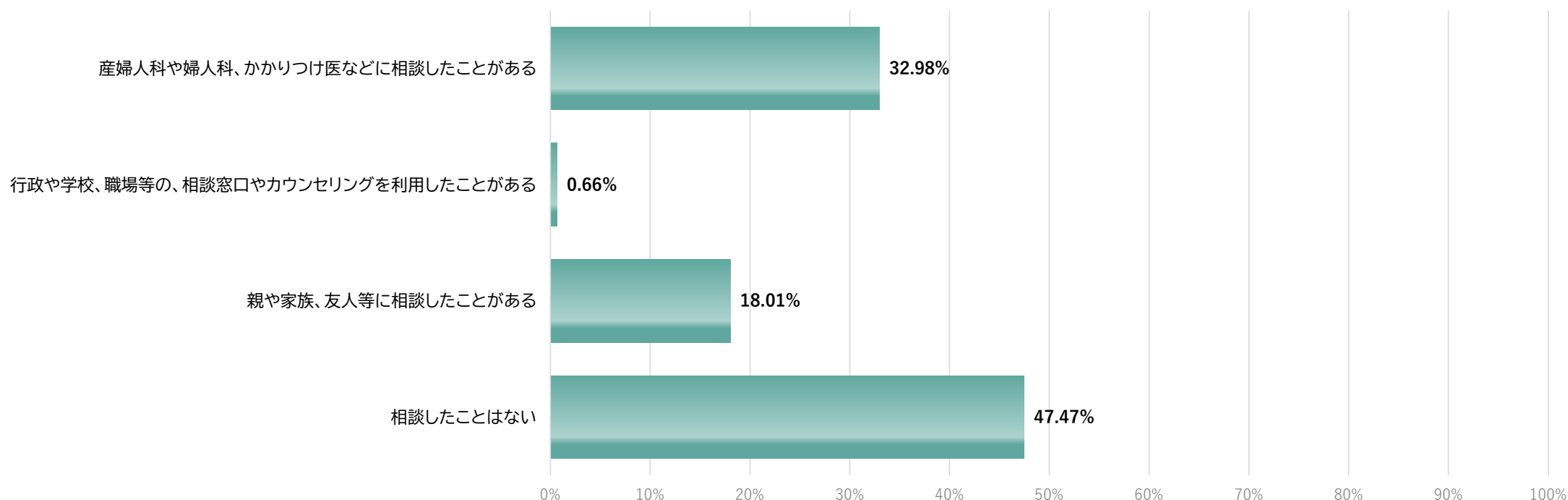
これらの結果からは、女性の健康課題を個人だけの問題とせず、医療機関、行政、企業、教育機関等が連携し、女性の健康・医療に関する相談・提供体制の充実や正確な情報発信、女性の健康に対する理解促進を進めるとともに、フェムテックなども活用しながら、ライフステージを通じて心身の不調を自然に支えられる社会環境を構築していくことが重要であることが示唆されます。

Q18. 女性特有の健康課題である、月経やPMS（月経前症候群）に関する困りごとはありますか？（複数選択可、3つまで）



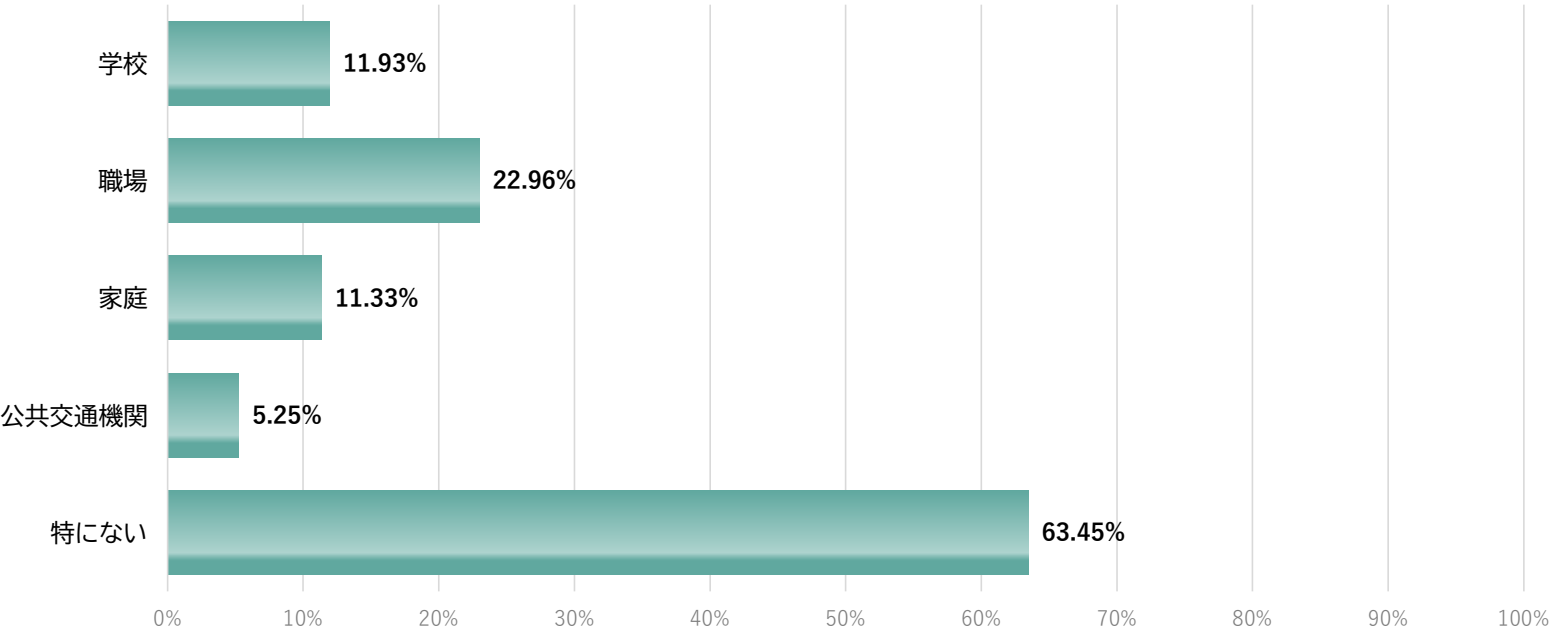
	18～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65歳以上	全体
体調不良（腹痛、頭痛、気分の落ち込みなど）が辛い、我慢や無理をしてしまう	58.88%	58.58%	65.97%	62.63%	60.47%	54.51%	55.65%	46.25%	21.43%	22.22%	58.62%
職場や学校で、月経に関する周囲の理解が乏しく、気遣いを求めづらい	15.89%	14.20%	14.93%	12.46%	12.50%	11.11%	6.09%	12.50%	3.57%	11.11%	12.46%
職場や学校で、月経の話題がタブー視されていると感じる	11.21%	7.10%	6.94%	6.73%	2.70%	4.51%	4.35%	5.00%	0.00%	11.11%	5.66%
自分の体調不良が、医療機関を受診した方がよい程度なのか、セルフケアでよいのか分からない	28.04%	30.18%	27.08%	28.28%	29.73%	23.96%	40.87%	18.75%	17.86%	22.22%	27.97%
医療機関への相談・受診に抵抗がある	17.76%	9.47%	11.11%	12.46%	12.50%	12.15%	14.78%	12.50%	10.71%	0.00%	12.28%
特に困っていることはない	28.04%	25.44%	21.18%	22.90%	23.99%	31.25%	26.09%	41.25%	60.71%	44.44%	26.65%

Q19. 月経やPMS（月経前症候群）に関して相談したことはありますか？（1つのみ選択）



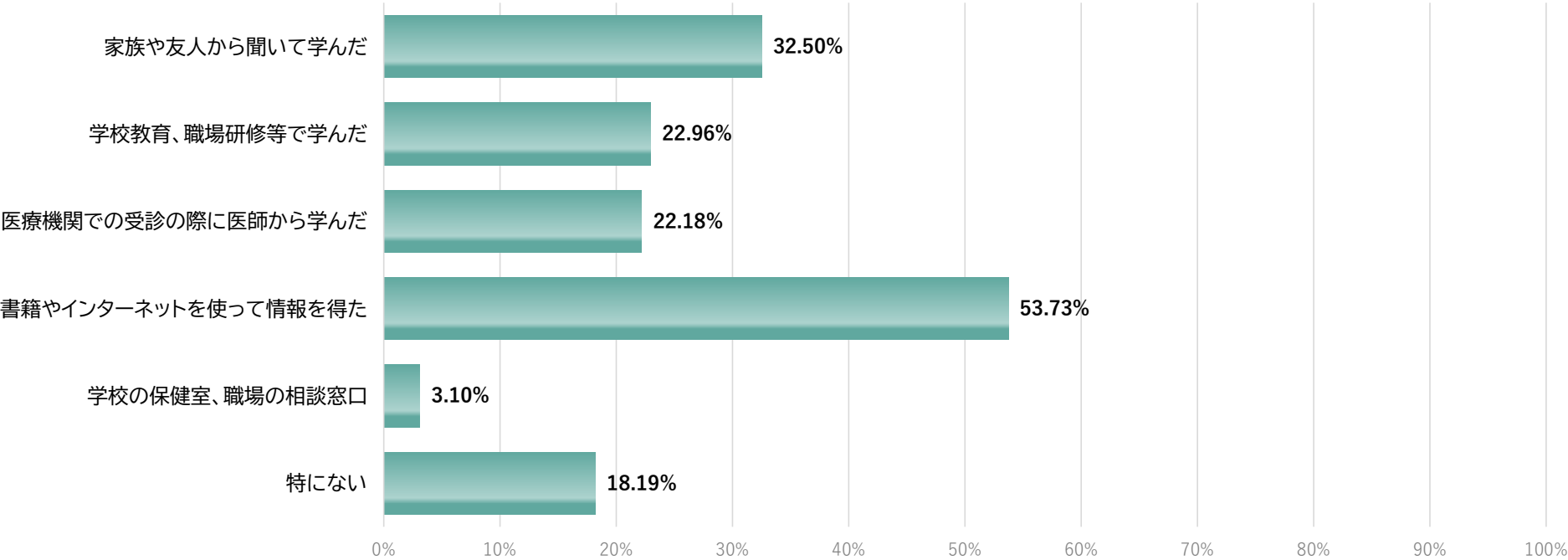
	18～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65歳以上	全体
産婦人科や婦人科、かかりつけ医などに相談したことがある	22.43%	40.24%	40.97%	33.00%	31.76%	30.21%	28.70%	32.50%	17.86%	0.00%	32.98%
行政や学校、職場等の、相談窓口やカウンセリングを利用したことがある	0.93%	1.18%	0.69%	0.00%	0.68%	0.69%	0.87%	1.25%	0.00%	0.00%	0.66%
親や家族、友人等に相談したことがある	29.91%	19.53%	15.63%	21.55%	15.88%	16.32%	20.00%	10.00%	3.57%	22.22%	18.01%
相談したことはない	46.73%	39.05%	41.67%	44.78%	50.68%	51.74%	49.57%	53.75%	75.00%	77.78%	47.47%

Q20. 月経やPMS（月経前症候群）について、周囲から配慮を受けられなかった経験はありますか？
それはどのような場所でのできごとですか？（複数選択可）



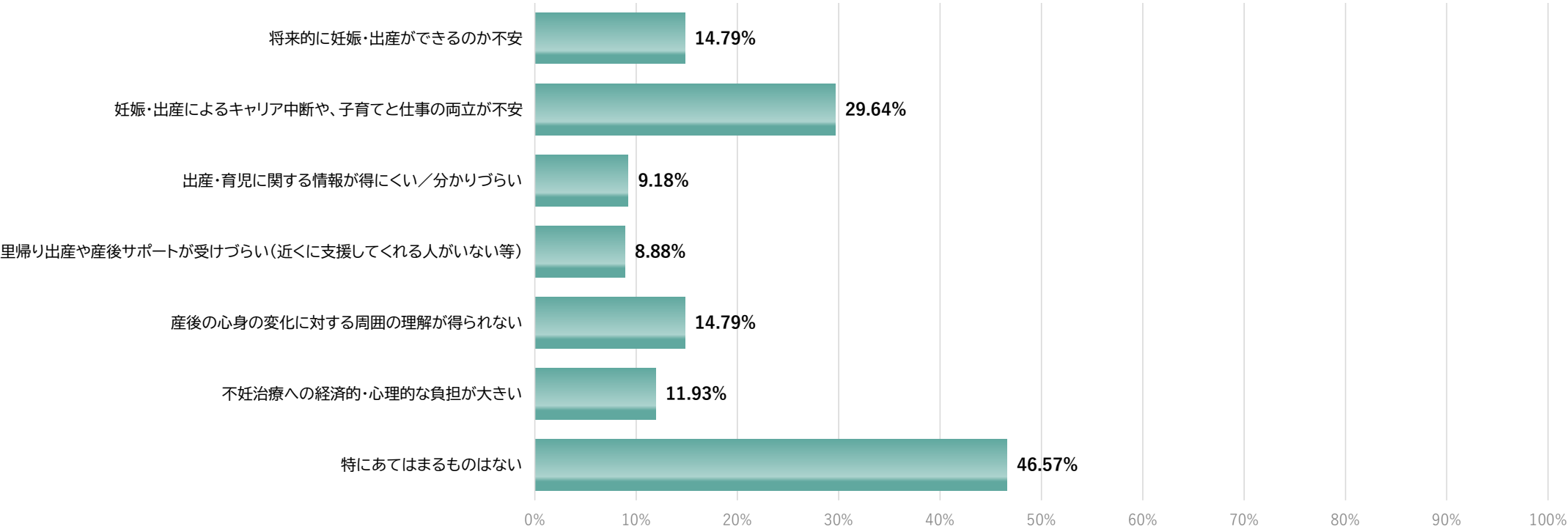
	18～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65歳以上	全体
学校	13.08%	11.24%	11.81%	13.80%	10.47%	13.19%	13.91%	5.00%	7.14%	11.11%	11.93%
職場	14.02%	21.30%	25.35%	20.20%	25.34%	23.96%	31.30%	20.00%	17.86%	0.00%	22.96%
家庭	3.74%	2.37%	11.11%	13.13%	16.55%	12.15%	13.91%	10.00%	10.71%	0.00%	11.33%
公共交通機関	7.48%	9.47%	6.60%	4.71%	4.39%	4.17%	2.61%	2.50%	3.57%	0.00%	5.25%
特にない	70.09%	68.05%	62.15%	64.98%	61.49%	62.50%	56.52%	62.50%	64.29%	77.78%	63.45%

Q21. これまでに、女性特有の健康問題に関して知る機会や情報を得る機会がありましたか？（複数選択可）



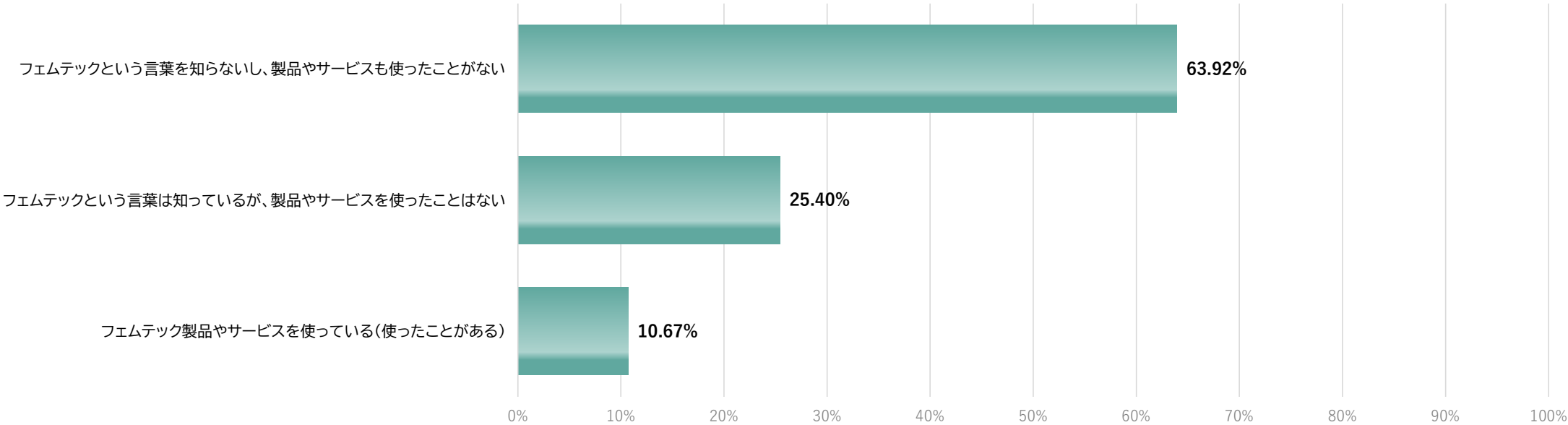
	1 8 ～ 2 4 歳	2 5 ～ 2 9 歳	3 0 ～ 3 4 歳	3 5 ～ 3 9 歳	4 0 ～ 4 4 歳	4 5 ～ 4 9 歳	5 0 ～ 5 4 歳	5 5 ～ 5 9 歳	6 0 ～ 6 4 歳	6 5 歳以上	全体
家族や友人から聞いて学んだ	38.32%	36.09%	32.29%	31.31%	34.12%	31.25%	29.57%	27.50%	21.43%	44.44%	32.50%
学校教育、職場研修等で学んだ	57.94%	30.18%	22.92%	18.18%	17.57%	18.06%	19.13%	23.75%	14.29%	33.33%	22.96%
医療機関での受診の際に医師から学んだ	12.15%	18.93%	25.69%	20.88%	19.59%	24.65%	22.61%	32.50%	32.14%	11.11%	22.18%
書籍やインターネットを使って情報を得た	42.99%	50.30%	56.25%	51.52%	56.42%	56.94%	59.13%	45.00%	53.57%	55.56%	53.73%
学校の保健室、職場の相談窓口	9.35%	5.33%	3.47%	2.02%	3.04%	1.74%	1.74%	0.00%	3.57%	0.00%	3.10%
特にない	14.02%	20.12%	17.71%	20.88%	17.91%	15.28%	18.26%	21.25%	25.00%	11.11%	18.19%

Q22. 妊娠・出産・育児に関する困りごとや不安はありますか？（複数選択可、3つまで）



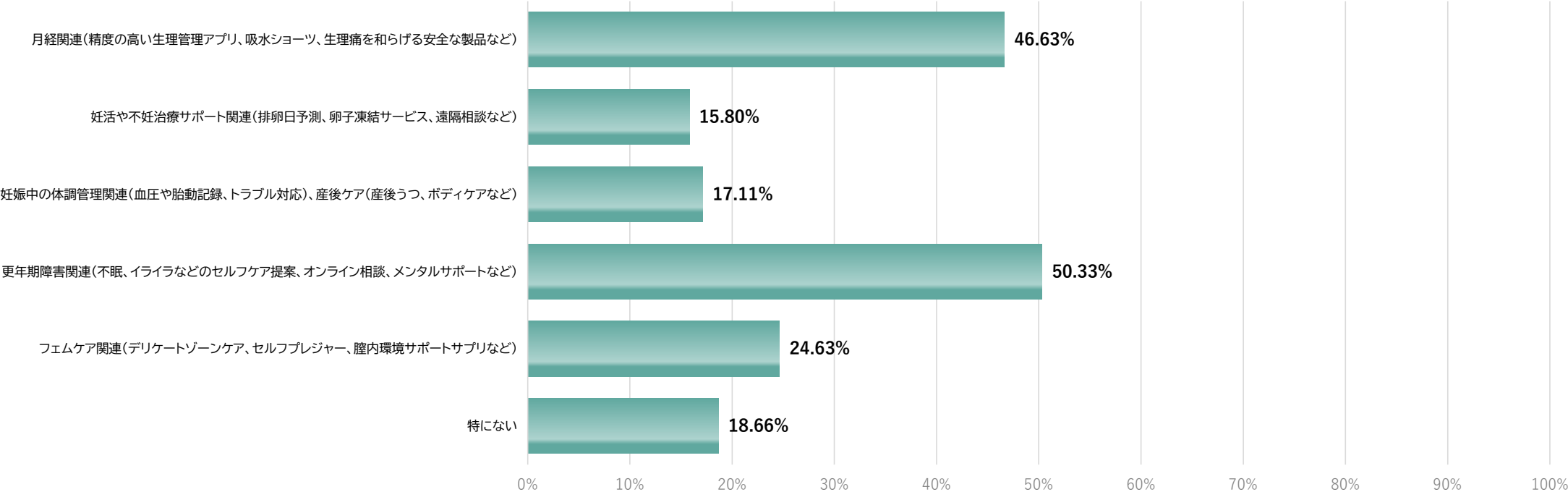
	18～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65歳以上	全体
将来的に妊娠・出産ができるのか不安	43.93%	37.87%	24.31%	12.79%	9.46%	0.35%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	14.79%
妊娠・出産によるキャリア中断や、子育てと仕事の両立が不安	44.86%	53.25%	52.08%	36.70%	21.28%	9.03%	4.35%	5.00%	7.14%	0.00%	29.64%
出産・育児に関する情報が得にくい／分かりづらい	7.48%	14.79%	13.19%	13.80%	10.14%	3.47%	0.00%	2.50%	0.00%	0.00%	9.18%
里帰り出産や産後サポートが受けづらい（近くに支援してくれる人がいない等）	5.61%	8.28%	14.93%	16.16%	7.43%	3.47%	2.61%	2.50%	3.57%	0.00%	8.88%
産後の心身の変化に対する周囲の理解が得られない	14.02%	15.38%	21.88%	22.56%	15.20%	6.94%	5.22%	6.25%	3.57%	0.00%	14.79%
不妊治療への経済的・心理的な負担が大きい	3.74%	11.83%	17.71%	17.51%	14.53%	9.03%	2.61%	1.25%	0.00%	0.00%	11.93%
特にあてはまるものはない	29.91%	20.12%	19.10%	35.02%	50.34%	73.96%	81.74%	86.25%	82.14%	88.89%	46.57%

Q23. フェムテックについて、当てはまるものを選択してください。



	1 8 ～ 2 4 歳	2 5 ～ 2 9 歳	3 0 ～ 3 4 歳	3 5 ～ 3 9 歳	4 0 ～ 4 4 歳	4 5 ～ 4 9 歳	5 0 ～ 5 4 歳	5 5 ～ 5 9 歳	6 0 ～ 6 4 歳	6 5 歳以上	全体
フェムテックという言葉を知らないし、製品やサービスも使ったことがない	86.92%	75.15%	62.85%	61.95%	62.50%	62.85%	45.22%	52.50%	71.43%	77.78%	63.92%
フェムテックという言葉は知っているが、製品やサービスを使ったことはない	9.35%	16.57%	23.96%	26.26%	22.97%	27.08%	45.22%	42.50%	25.00%	22.22%	25.40%
フェムテック製品やサービスを使っている（使ったことがある）	3.74%	8.28%	13.19%	11.78%	14.53%	10.07%	9.57%	5.00%	3.57%	0.00%	10.67%

Q26. どのような分野のフェムテック製品やサービスに関心がありますか？（複数選択可）



	18～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65歳以上	全体
月経関連（精度の高い生理管理アプリ、吸水ショーツ、生理痛を和らげる安全な製品など）	62.62%	60.95%	60.07%	53.54%	46.96%	33.33%	24.35%	17.50%	3.57%	22.22%	46.63%
妊活や不妊治療サポート関連（排卵日予測、卵子凍結サービス、遠隔相談など）	10.28%	28.40%	26.04%	22.56%	14.19%	3.82%	3.48%	6.25%	3.57%	11.11%	15.80%
妊娠中の体調管理関連（血圧や胎動記録、トラブル対応） 産後ケア（産後うつ、ボディケアなど）	16.82%	35.50%	36.11%	17.85%	10.47%	2.78%	3.48%	10.00%	0.00%	11.11%	17.11%
更年期障害関連（不眠、イライラなどのセルフケア提案、オンライン相談、メンタルサポートなど）	11.21%	10.65%	27.43%	52.19%	67.57%	79.17%	80.87%	56.25%	39.29%	33.33%	50.33%
フェムケア関連（デリケートゾーンケア、セルフプレジャー、膣内環境サポートアプリなど）	21.50%	27.81%	27.43%	24.58%	23.31%	25.00%	26.09%	18.75%	10.71%	22.22%	24.63%
特になし	28.97%	20.71%	13.89%	17.85%	17.91%	12.15%	13.91%	36.25%	57.14%	55.56%	18.66%

Q27. 女性特有の健康課題に関するモヤモヤについて、具体的なエピソードや体験談、「もっとこうだったらいいのに」と感じること

①

生理痛が激しく、勉強や仕事
が困難なことがあったが病気
ではないと我慢する事が多
かった。まだまだ月経困難症
への社会の理解が低いと感
じもどかしく感じる。

②

女性の不調は軽視、上司が男性
で言えない、生理痛で休みづ
らい。

③

更年期障害への理解が低い。イ
ライラとホットフラッシュしか
ないと思われている。実際不眠
やめまい等で起き上がれないこ
ともある。

④

公共交通機関で、生理痛等があり
座っていると「若いのに席を譲ら
ない」と圧をかけられている気持ちに
なることがあり、無理してでも立っ
ています。見た目で分からなくても、
辛いことがあることを知ってほしい。

⑤

女性でも症状が軽い人もいます。で
すが、その方が同じ女性として『大し
したことない』等と流布するのは本当
に良くないと思います。個人差があ
り、ひどい人は本当につらいと思い
ます。男女関係なく、理解を。

⑥

月経不順や月経過多、過度な生理
痛やPMSでも病院に行かず気に
しない人が多いです。受診への抵
抗があるんだと思いますが、私自
身月経不順と生理痛で受診してみ
たら子宮内膜症とPCOSでした。

⑦

若い頃は婦人科受診のハードル
が高く、生理痛が重かったがな
かなか病院に行けなかった。もっ
と相談しやすい環境があると嬉
しい。

⑧

女性ホルモンの変化による偏
頭痛に悩まされているが最初
何科を受診すれば良いかわか
らなかった。。総合的に診察科
を案内してくれるところがあ
ると嬉しい。

⑨

病院に行きやすくなって欲しい
です。婦人科に相談に行く
のはハードルが高いので(待
ち時間も長い)その前に気楽
に相談出来る場所があれば
嬉しい。

⑩

女性特有の悩みにつて、気軽に
相談できる機関がほしい。

⑪

更年期については病院を受診した
方がいいのがどうかの判断が
つきづらく、1人で抱えがちである。
50歳の女性に婦人科の受診券の
配布等があると、その入り口への
ハードルが下がりそうな気がする。

⑫

意外と産後の不調について知
る機会が少ないと感じた。

⑬

インターネットで何でも調べ
る時代だが、情報が多すぎ、
また正確な情報が分からない。
安全で正確でわかりやす
いサイトがあればいい。

⑭

男性が月経などの基本的なこ
とを分かっていない。しっか
り学生のうちから、性教育を
してほしい。

⑮

生理休暇は、なんとなく取り
にくい。利用してもいい制度
だとわかってはいるが、とっ
たことがない。

⑯

生理休暇を申請した同僚が、
周りの方から、そんなの申請
するな、嘘だろうとせ、みた
いな陰口を言われていて、か
わいそうだった。堂々と休め
るようにしてほしい

⑰

辛い時には休めるような休暇を
設けている会社などがあると聞
きました。そのような制度がもっ
と広まってくれたら、女性の健康
課題について理解も深まるのか
なと思いました。

⑱

不妊治療が保険適応になった
とはいえ金額が高く、家計が厳
しくなる。もっと金銭的に下
がればいいと思う。

⑲

年齢的に妊娠・出産が可能なの
かがすごく心配で、卵子凍結に関心
を持っていますが、費用がかなり
高額なので、補助などの制度があ
るとすごくいいなと思います。

⑳

出産費用や妊活費用がもっと
安かったらいいのに。無痛分
娩にお金かかりすぎてできな
い。

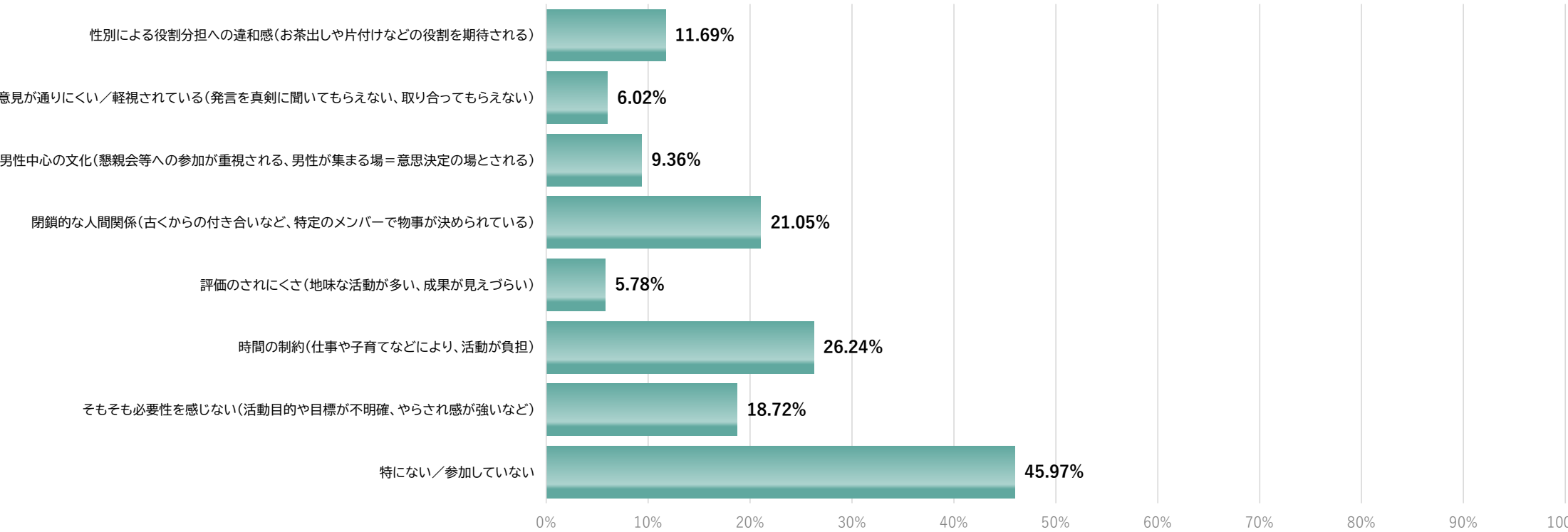
コミュニティ(社会とのつながり)について

気軽につながり、安心して声を届けられる場づくりを

コミュニティに関しては、地域活動における時間的負担や閉鎖的な人間関係、固定的な役割分担などが参加の負担となっている一方で、対面に限らず、オンラインやSNSなどを通じて気軽につながれる場や、匿名で声を届けられる仕組みへのニーズが高いことがうかがえました。また、地域とのつながりや交流を求める声がある一方で、参加したいコミュニティが分からない、参加しづらいといった声も見られ、必要な時に適切なつながりへアクセスしにくい状況が読み取れます。

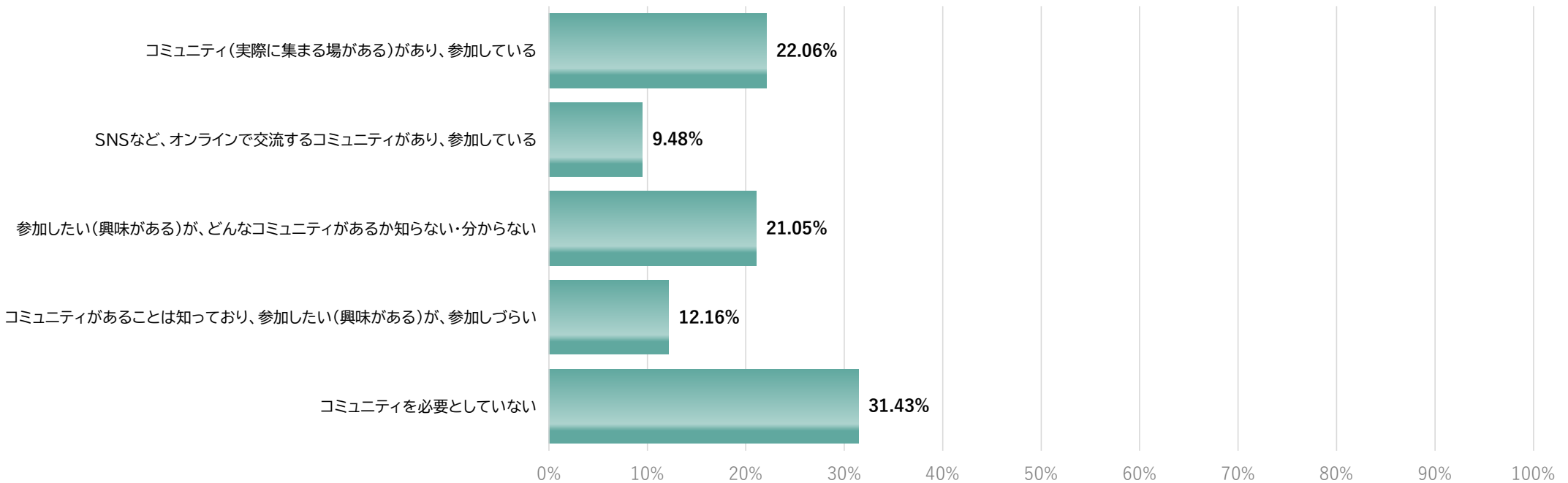
これらの結果からは、従来型の地域活動だけでなく、多様な価値観やライフスタイルに応じた柔軟なコミュニティづくりが求められていることがうかがえます。子育てを機に地域との関わりが増えることも踏まえ、「義務感で参加する場」ではなく、必要な時に必要な人や情報とつながることができ、オンラインも含めて気軽にアクセスできるコミュニティへとアップデートしていくことが重要であることが示唆されます。

Q28. 地域活動（PTAや自治会など）で感じるモヤモヤや困り事がありますか？（複数選択可、3つまで）



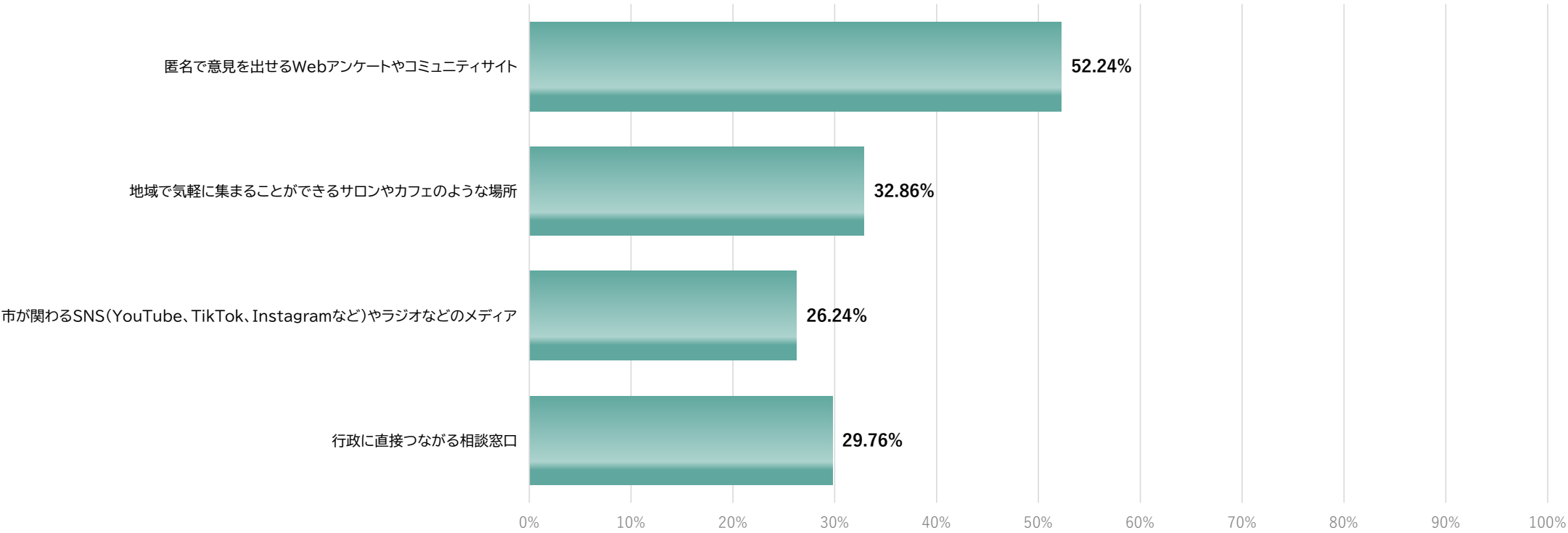
	18～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65歳以上	全体
性別による役割分担への違和感（お茶出しや片付けなどの役割を期待される）	14.02%	9.47%	8.33%	12.12%	10.47%	13.19%	15.65%	13.75%	21.43%	11.11%	11.69%
意見が通りにくい／軽視されている（発言を真剣に聞いてもらえない、取り合ってもらえない）	4.67%	2.96%	7.64%	5.72%	5.07%	6.60%	6.96%	7.50%	14.29%	0.00%	6.02%
男性中心の文化（懇親会等への参加が重視される、男性が集まる場＝意思決定の場とされる）	4.67%	8.28%	6.94%	6.73%	8.45%	11.81%	13.04%	18.75%	25.00%	22.22%	9.36%
閉鎖的な人間関係（古くからの付き合いなど、特定のメンバーで物事が決められている）	16.82%	8.28%	15.28%	18.18%	23.65%	29.51%	29.57%	32.50%	25.00%	11.11%	21.05%
評価のされにくさ（地味な活動が多い、成果が見えづらい）	4.67%	2.37%	6.25%	4.38%	6.08%	5.56%	8.70%	12.50%	10.71%	0.00%	5.78%
時間の制約（仕事や子育てなどにより、活動が負担）	13.08%	9.47%	26.04%	32.32%	33.45%	27.08%	26.09%	27.50%	32.14%	11.11%	26.24%
そもそも必要性を感じない（活動目的や目標が不明確、やらされ感が強いなど）	14.95%	11.24%	17.71%	20.54%	20.61%	23.26%	18.26%	15.00%	17.86%	11.11%	18.72%
特にない／参加していない	66.36%	68.05%	53.82%	45.79%	38.85%	36.11%	30.43%	31.25%	32.14%	66.67%	45.97%

Q29. 職場、家庭、学校以外に、共通の趣味でつながったり気軽に交流ができるようなコミュニティ（場所や機会）について
どのように考えますか？（1つのみ選択）



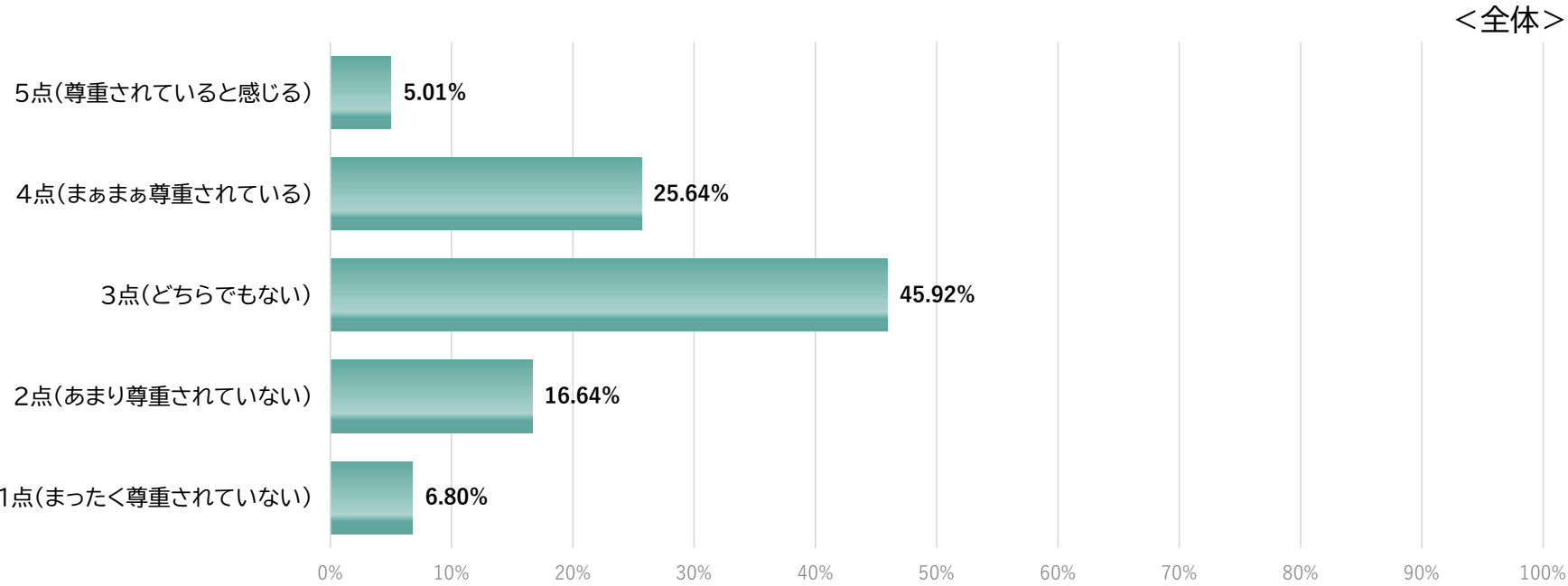
	18～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65歳以上	全体
コミュニティ（実際に集まる場がある）があり、参加している	16.82%	15.38%	19.44%	17.85%	23.31%	28.13%	25.22%	30.00%	35.71%	44.44%	22.06%
SNSなど、オンラインで交流するコミュニティがあり、参加している	9.35%	7.69%	13.19%	11.11%	7.09%	9.03%	9.57%	6.25%	3.57%	11.11%	9.48%
参加したい（興味がある）が、どんなコミュニティがあるか知らない・分からない	22.43%	27.22%	25.69%	19.19%	19.59%	18.75%	17.39%	20.00%	14.29%	0.00%	21.05%
コミュニティがあることは知っており、参加したい（興味がある）が、参加しづらい	9.35%	10.06%	12.85%	15.49%	13.51%	6.94%	15.65%	12.50%	17.86%	11.11%	12.16%
コミュニティを必要としていない	40.19%	36.69%	27.08%	30.64%	33.11%	31.94%	27.83%	26.25%	28.57%	22.22%	31.43%

Q30. あなたの声を地域や社会に向けて発信する手段として、「使いやすい」、「あったらよい」と思うものを選んでください。（複数選択可）



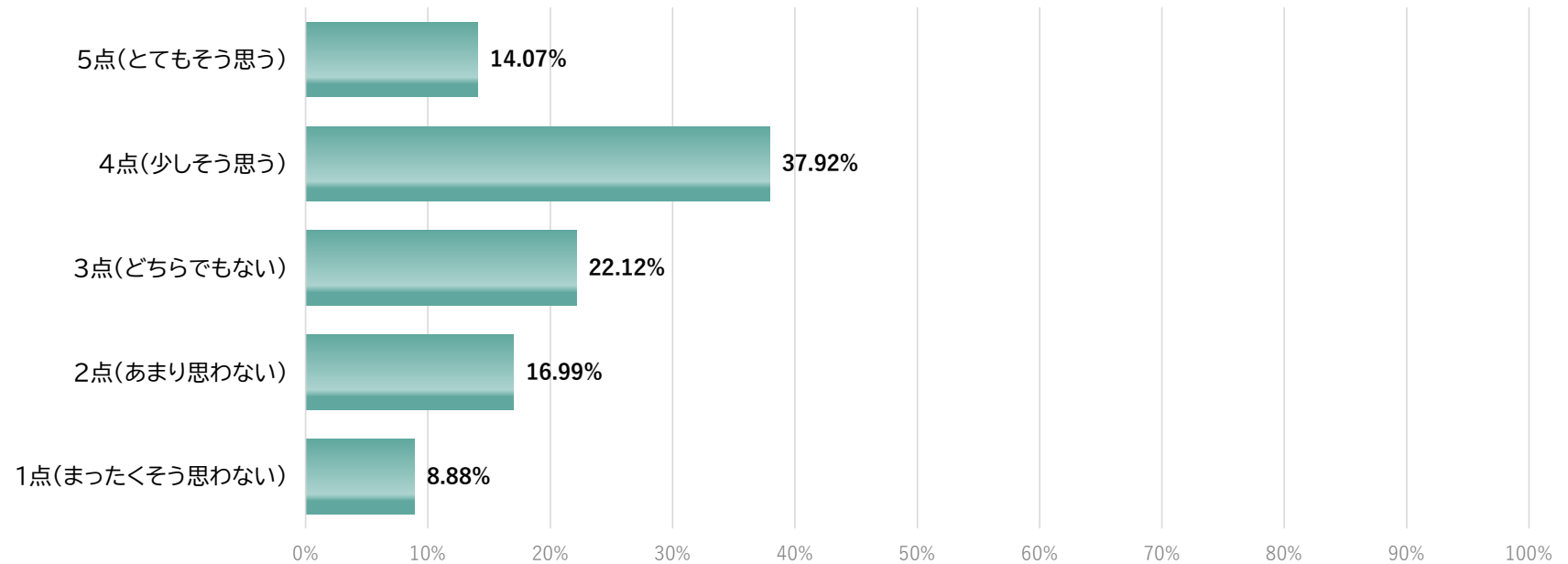
	1 8 ～ 2 4 歳	2 5 ～ 2 9 歳	3 0 ～ 3 4 歳	3 5 ～ 3 9 歳	4 0 ～ 4 4 歳	4 5 ～ 4 9 歳	5 0 ～ 5 4 歳	5 5 ～ 5 9 歳	6 0 ～ 6 4 歳	6 5 歳以上	全体
匿名で意見を出せるWe b アンケートやコミュニティサイト	43. 93%	50. 30%	53. 13%	55. 22%	52. 70%	53. 82%	53. 04%	51. 25%	35. 71%	44. 44%	52. 24%
地域で気軽に集まることができるサロンやカフェのような場所	33. 64%	33. 14%	37. 85%	36. 36%	31. 08%	23. 96%	36. 52%	35. 00%	28. 57%	33. 33%	32. 86%
市が関わる S N S （YouTube、TikTok、Instagramなど） やラジオなどのメディア	28. 97%	28. 99%	32. 64%	28. 96%	27. 03%	17. 01%	20. 00%	27. 50%	14. 29%	22. 22%	26. 24%
行政に直接つながる相談窓口	20. 56%	30. 18%	28. 82%	28. 96%	33. 11%	29. 51%	32. 17%	27. 50%	35. 71%	55. 56%	29. 76%

Q31. 自分の価値や意見が社会で尊重されていると感じますか？



	1 8～2 4歳	2 5～2 9歳	3 0～3 4歳	3 5～3 9歳	4 0～4 4歳	4 5～4 9歳	5 0～5 4歳	5 5～5 9歳	6 0～6 4歳	6 5歳以上	全体
5 点（尊重されていると感じる）	9.35%	5.33%	4.17%	4.38%	3.38%	5.56%	7.83%	5.00%	0.00%	11.11%	5.01%
4 点（まあまあ尊重されている）	31.78%	30.18%	25.00%	21.89%	22.97%	25.35%	28.70%	25.00%	39.29%	33.33%	25.64%
3 点（どちらでもない）	46.73%	45.56%	45.49%	49.49%	45.27%	46.53%	40.87%	43.75%	42.86%	33.33%	45.92%
2 点（あまり尊重されていない）	9.35%	15.38%	18.40%	16.16%	18.92%	17.01%	13.04%	20.00%	14.29%	22.22%	16.64%
1 点（まったく尊重されていない）	2.80%	3.55%	6.94%	8.08%	9.46%	5.56%	9.57%	6.25%	3.57%	0.00%	6.80%

Q32. あなたは「女らしさ」「母親らしさ」「妻らしさ」などの固定観念にしばられている、または周囲からそのような固定観念を押し付けられていると感じることがありますか？



	1 8～2 4歳	2 5～2 9歳	3 0～3 4歳	3 5～3 9歳	4 0～4 4歳	4 5～4 9歳	5 0～5 4歳	5 5～5 9歳	6 0～6 4歳	6 5歳以上	全体
5 点（とてもそう思う）	8. 41%	9. 47%	16. 67%	15. 15%	16. 22%	13. 54%	14. 78%	15. 00%	7. 14%	0. 00%	14. 07%
4 点（少しそう思う）	38. 32%	37. 28%	44. 44%	35. 69%	38. 51%	34. 38%	35. 65%	41. 25%	28. 57%	33. 33%	37. 92%
3 点（どちらでもない）	21. 50%	23. 67%	18. 40%	24. 58%	21. 62%	21. 53%	27. 83%	17. 50%	35. 71%	0. 00%	22. 12%
2 点（あまり思わない）	19. 63%	18. 34%	13. 89%	16. 50%	16. 89%	19. 10%	14. 78%	16. 25%	21. 43%	33. 33%	16. 99%
1 点（まったくそう思わない）	12. 15%	11. 24%	6. 60%	8. 08%	6. 76%	11. 46%	6. 96%	10. 00%	7. 14%	33. 33%	8. 88%

Q33. 自分らしさや、人生における様々な選択、社会や地域におけるつながりに関するモヤモヤについて、具体的なエピソードや体験談、
「もっとこうだったらいいのに」と感じること

①

自分の一番は何か、を考え、子どもを選択し仕事を辞めました。でも仕事を辞めると経済的に苦しく、優先したかった子育ても不安と焦立ちが邪魔をしてきます。

②

仕事が好きで、子育て＜仕事を
選択した。夫には相談の結果、
専業主夫になって貰った。しか
し、社会的にまだまだ少数派な
夫婦で理解度が低いと感じる。

③

結婚し、子どもに恵まれて幸せな反面、本来なら続けていた仕事をやめることになり、正社員になるチャンスや、キャリア継続の機会を失った。夫は順調にキャリアを積み、仕事に集中できていてうらやましく感じる。

④

趣味の集まりなどに参加してみたいと思いますが、子どもを連れて参加できる場所が近くにないことや、既にできあがったコミュニティに入ることへの不安があります。

⑤

市や区はいろんなことしてるのだろうけど、それが届かない。チラシなどみても関わりづらかったり私には遠い世界と思ってしまう。1歩踏み出せばいいのだろうけどその1歩がでかい。

⑥

大人になると出会いの機会が極端に減ってしまうと感じている。特に地元以外の場所では人とのつながりを持つのが難しく、『気軽に参加できるコミュニティの場』がもっとあればいいのと思う。

⑦

夫は家事も何もせずに遊びに行っても誰にも責められないが妻は家事や子供の身の回りのほとんどのことをこなして出掛けても文句を言われる

⑧

親戚からは、料理や子育てなど家庭的なところは褒められるが、仕事内容などは、褒められたためしがない。対して夫は、働きながら子育てもして偉いと言われているのが納得できない。

⑨

子供の面倒や看病は母親がして当たり前の環境や雰囲気を作りたい。

⑩

コミュニティが狭く、良くも悪くも、意図せずプライベートなことまで繋がりすぎてしまうので疲れる事がある。

⑪

共働きが多くなっているのに、地域での活動に困難な人が増えている。昔と同じ制度では活動は縮小になって当たり前だと思う。もっと全員参加の活動になればいいと思う。

⑫

町内会の負担が大きい。できる人となると、日々のゴミステーション管理や市政だよりの配布等を女性(妻)がやっていることが多いと思う。

⑬

元々地元が北九州でないのに、人との関わりが少なく寂しい。趣味や習い事などのコミュニティが近くにあるといいなと思う。

⑭

クラブ活動等でお茶出し等はお母さんの仕事に思える。近くでイスに座っているお父さんがいるのに。

⑮

独身を選んでいるだけなのに結婚できない人という目で見られ、鬱陶しい。

⑯

DINKSを選択しており家族や親族、友人、仕事関係者の理解はあるが、近所の高齢の方からしつこく『子供はいつつくるのか』と3年以上聞かれ続けている。

⑰

結婚してない人を蔑んだり、同情したりする雰囲気が無くなってほしい。

⑱

どうせ言っても届かないと思う。

⑲

家族との繋がりが薄いので、もっと気軽にカウンセラーや相談できる場所、心が休まる場所があったら良いと思う。

⑳

この地域はやはり男尊女卑というか女は一歩下がって弁える事を求められている事が強いと感じます。

Q34. 理想とするライフスタイルや、働き方、暮らし方はどんなものですか？

①

ワークライフバランスは必要。時短になってすごく効率が上がった。定時で生産性の高い仕事をこなし、育児にカリカリせず、自分の余暇も楽しむゆとりを持てる人生を送りたい

②

子どもの休みや行事に合わせやすい職場が理想です。まだ1人で留守番させられないので、働けずにいます。

③

ライフスタイルは仕事と家庭のバランスがうまく取れること。働き方は柔軟な働き時間でどの世代も子育てや介護で辞めなくて良い環境、暮らして若い世代も高齢者も豊かな生活ができることを期待したい。

④

理想は、ライフスタイルが変わっても働き続けることのできる職場で働きたいです。休みを取りやすい雰囲気、それぞれの生活に合った柔軟な勤務時間があればいいと思います。

⑤

現在、完全テレワークで就業してますが、テレワークと適度な出社を含めた働き方で人と対面して働きたい。

⑥

お金のことばかりを考えずに、やりたいことを周りの目を気にせずやって行きたい

⑦

子育て介護が、経済的なことを考えずに安心してできる世の中。お一人様でも、老後の不安なく、死ぬまで誰かの役に立てるような居場所がある世の中。

⑧

好きなところに住むことができ、やりがいのある仕事ができること。

⑨

パパもママも、子どもに積極的に関われる働き方が理想。また、毎日通える公園と週に1回、父が休みの日に家族総出で遊びに行けるような公園があるといいな、と思う。

⑩

仕事や家庭について女性も男性も平等に選択できる環境。そしてそれぞれの家庭環境に合わせて、働ける環境。

⑪

ガチガチの二馬力でなくても生活していけること。子どもとの時間、家族と過ごす時間を大切に生きていきたい。

⑫

103万の年収の壁をなくし、扶養内でも働きやすい環境にしてもらいたい。

⑬

子供との時間をもっと増やしたい。でも働かないと生活できない。今は子供との時間を犠牲にしながら働いている感じ。

⑭

障害の有無や性別など関係なく、心地よく働けてプライベートも充実できる街になってほしい。

⑮

本当は、夫婦のどちらかが、夕方までには帰宅し子どもが帰ってきたときは、大人が家にいるのが理想だが、今、ひとりの稼ぎでは到底子どもを育てることはできない。

⑯

家事育児を夫婦で協力し合いながら生活をしていく事が理想。働き方は、子どもが生まれてから小学生までの間は短時間勤務で子育てを中心にして、その後は正社員としてまた働きたい。

⑰

週休二日で有給を心置きなくとり、旅行に行ったり好きな事にもっと時間を使い、リフレッシュして、仕事にパワーアップして臨みたい。

⑱

長期の休みを皆が自由に気兼ねなく取れ、自分のことを考える時間がある生活

⑲

今は週休2日、フルタイム勤務だが、週休3日で勤務時間ももう少し短く、自分のための時間になるべく多く確保したい。

⑳

子育てと家事、仕事は、夫婦で分担し、どちらか一方の役割という認識ではないライフスタイルが理想的。

Q35. 理想を実現する上で、何か課題になることがありますか？

①

フルタイム働いても、十分な給料がもらえないこと。正直、毎月200時間超えて働き、休日はアルバイトして、それでも物価高に耐えきれず、子供にアルバイト代でお米を買ってもらっている。

②

物価高騰は続くが収入は増えない。働かないと生活ができないがその為に子どもたちと過ごせる時間は少なくなる。

③

収入は増えるのに時間がかかるのに、物価は高い。子供を欲しいが子どもは贅沢品。税金や社会保険料が高すぎる。

④

子を授かると働く時間が極端に減る。当然収入も減る。お金に余裕がなくなり生活に不安が出てくると感情も余裕がなくなり負の連鎖が出てくる。物価も上がっていく中で補助は追いついていないと感じる。

⑤

時短勤務の取得しにくさ、職場の空気や前例がないことで取得しづらい。夫婦間の認識の違い子供にとっては同じ親なのに育児・家事は妻の担当、手伝ってあげるという認識。

⑥

働かなければいけないこと。子どもを持ったとしても時短勤務が難しい。時短勤務が出来たとしても、周りの社員に気を遣って仕事することがしんどい。

⑦

不妊治療、妊娠、出産、夫の転勤と女性側がライフスタイルを変えざるを得ない場面が多すぎる。キャリア中断した女性を採用する企業へのサポート等あれば良いと思う。

⑧

男性は仕事と付き合いが最優先であり、女性は仕事と家事と育児を求められているように感じる。子どもの体調不良などのフォロー(仕事の早退や看病など)は当たり前にも母の担当という雰囲気を感じる。

⑨

未婚の人の理解。育休・産休が出たら仕事が誰かにしわ寄せになるという考え。

⑩

会社の休みを取りにくい、勤務時間が長い。家事は女性がするものという考えが根深く残っていると思う。小さい頃から、家事は女性だけがするものじゃないという教育が必要

⑪

残業する人の方が頑張っているという雰囲気、残業を良しとする風習です。効率良く残業せずに仕事をしている人ももっと評価してほしい。

⑫

子育てとの両立。仕事か子供かどちらかを選ばないといけない選択肢をなくしたい。

⑬

時間が足りない。でも、時短で働いて、今の仕事を続けていけなくなるのは困る。

⑭

一旦仕事を辞めると、正職員の仕事がない。金銭面の問題が大きく人生を左右すると思うので、女性の再就職が選べるくらいある社会にして欲しい。

⑮

フルタイムで働いていて、平日は最低限の家事育児に追われ、疲弊していること。子どもの学校からの連絡事項等を確認するのがギリギリで、趣味の教室など問題外。睡眠時間の確保が最優先。

⑯

時間に追われた生活ではなく、全て自分一人で完結しなければいけない生活ではなく。家事育児を家族と共有したい。

⑰

何かあった時にどこに行けばいいか、どこを頼ればいいのか、様々な事をすぐに教えてもらえる、コンシェルジュのような人が常駐している気軽に立ち寄れる場所がない。

⑱

男性の方が賃金が高く家庭でも優位な立場にある。そういう固定観念が根強い。

⑲

行政の『やってます！』という空気が、やってるだろうけど届いてない。

⑳

漠然とした老後への不安。子供がいない為、自分自身の介護が必要になった時にどうして良いかわからない

Q36. あなたにとって「コンフォートなまち」とはどんな街ですか？

①

女性だからという固定概念がないまち。行き過ぎたジェンダーレスは良くないと思うが、女性だから育児家事が当たり前というのは違うと思う。

②

子どもを守れるように地域の人などで子どもを育てるようなまちがいい。

③

女性が、『こうあるべき』から解放されるまち。家のことを私がしなきゃいけない、結婚しなきゃいけない、もっと子育てに熱心じゃないといけない、そのようないろんな周囲からの押し付けから解放されること。

④

男性の医療、介護、子育て、教育に関する意識改革と、それにかけられる時間を確保することのできる企業が集まる街。

⑤

防犯面で安全・安心に暮らせるまちがコンフォートなまちだと思う。

⑥

夜間でも安心して道を歩ける。個性的な見た目や言動でもからかいを受けない。街中にも自然がありリラックスできる。

⑦

女性が夜道を歩いても危なくない街。男性からのセクハラがない街、不安や恐怖を感じない街。歩いているだけで声をかけられたりしない街がいいです。

⑧

誰であっても疲れたら休める場所、寂しくなったら誰かに相談できる・集まれる拠り所がある街になれば嬉しいです。公園で知り合ったママ友に相談するような、そんな自然と人が集まれる場所があればなあと思います。

⑨

自立はしているが、孤独を感じないことが、心地よさだと思います。場所など、気軽に参加できるコミュニティがあることが、コンフォートな街に近づくと思います。

⑩

悩みや不安や苦労を一人で抱え込まなくてイイ！話を聞いてくれたり、相談にのってくれる場所があり、自分は一人じゃないと安心して暮らせる街

⑪

子育て世帯が安心して暮らせるまちです。共働きで子育てをするのはとてもハードで、親にゆとりがなくなると子どもに感情的に接してしまうこともあります。だからこそ、親が安心してサポートを受けられる仕組みが必要です。

⑫

表面的なサポートではなく、本当に必要なサポートが受けられる街だと思います。実在するサポートシステムと現状とが噛み合っていないことが多い気がします。

⑬

誰かのせいにせず、自分の行動を大切にできる人が多いまちになってほしいと思います。困っている人に自然と手を差し伸べられるような、思いやりのある地域が理想です。

⑭

褒め合うまちづくり。人づくり。街も人もとても素敵！素敵な街にするために、こんな努力をしよう。こんなことをしようと思える状態。

⑮

結婚、妊娠、出産でキャリアがストップしてしまわない制度。職場で結婚の報告をした際、『辞めるの？』と聞かれたのが印象的です。

⑯

働き方を選択できるまち。これに尽きると思う。1日1時間でも時短勤務できればかなり快適さが増すと思う。

⑰

年齢、独身、既婚問わず、女性が活躍できる環境を整えてほしいです。収入格差や女性への偏見はまだまだ課題だと思います。

⑱

リラックスできる。山や海がある。遊べる施設もある。空気を感じられる。いろいろな価値観や文化の人が交わる。流行も追えるし、伝統も守れる。

⑲

交通の便がよく病院も買い物にも不便のない環境。また、自然を感じる美しい丁寧な街づくりを感じる環境。

⑳

気軽に心身の不調を相談できる窓口＝仕組みが欲しい。予約せずともLINE等で相談窓口を振り分けてくれるだけでも隙間時間に対応できるのでありがたい。

Woman's リアルVOICE プロジェクト

アンケート分析内容

【リアルボイスから見える課題と課題へのアプローチの考え方】

リアルボイスプロジェクトでは、市民の皆さまから寄せられたたくさんの声をもとに、「どのような困りごとや思いがあるのか」だけでなく、「なぜそのような声が生まれるのか」という視点から分析を行いました。

まず、市民の皆さまから寄せられた声を、一つひとつ丁寧に読み込み、それぞれの声を「安心・安全」「子育て・家庭」「自分らしく働く」「健康」「人とのつながり」「快適な暮らし」「まちの魅力・活力」といった暮らしに身近な分野ごとに整理しました。こうすることで、一人ひとりの声だけでは見えにくい、北九州市全体に共通する課題が見えてきました。

例えば、「夜道が不安」「防犯を強化してほしい」「子どもの安全が心配」といった声は「安心・安全」の分野に、「保育園を利用しやすくしてほしい」「病児保育を充実してほしい」「家事や育児をもっと分担したい」といった声は「子育て・家庭」の分野に、「生理や更年期への理解を深めてほしい」「婦人科を受診しやすくしてほしい」といった声は「健康」の分野に整理しました。

しかし、分野ごとに整理するだけでは、「なぜ、このような声が生まれるのか」という背景までは十分に見えてきません。

そこで、Woman 'sリアルVOICEラジオやWoman' sリアルVOICEカフェでの対話から得られた気づきも参考にしながら、それぞれの声の背景について考えてみました。

その結果、一見すると別々の課題に見える声でも、その背景には共通する要因があるのではないかと見えてきました。

例えば、「男性も育児休業を取りやすくしてほしい」「家事や育児をもっと分担したい」「仕事と育児を両立しやすくしてほしい」「女性管理職を増やしてほしい」といった声は、それぞれ異なる内容に見えます。しかし、その背景には、「家事や育児は女性が担うもの」という考え方や、長時間働くことを前提とした働き方や職場の慣行が影響している可能性があります。

また、「生理や更年期への理解を深めてほしい」「婦人科を受診しやすくしてほしい」「相談できる場所がほしい」といった声の背景には、「困っていても我慢してしまう」「一人で抱え込んでしまう」といった状況があるのかもしれません。

さらに、「夜道が不安」「公共交通やトイレを利用しづらい」「もっと挑戦できる機会を増やしてほしい」といった声についても、「これくらいは仕方がない」と受け止められてしまうことや、自分の思いを言い出しにくい雰囲気が影響している可能性があります。

このように分析を進める中で、さまざまな声の背景には、まち全体の考え方や慣習、いわば「まちの空気感」が関係しているのではないかと考えました。

そこで、本分析では、「まちの空気感」を表すものとして、次の3つを仮説として整理しました。

- ・ 「家事や育児は女性が担うもの」といった性別による役割意識が残っていること
- ・ 長時間労働を前提とした働き方や職場の慣行があること
- ・ 困っていても本音を言い出しにくく、我慢することが当たり前になりやすいこと

こうした課題は、一つの取組だけですぐに変えられるものではありません。

そのため北九州市では、市民の皆さまから寄せられたリアルボイスを、「らしさプロジェクト」をはじめ、安全・安心な暮らし、子育てや仕事との両立、働きやすい環境づくり、女性の健康支援、人とのつながりづくりなど、各局が取り組む様々な施策に生かしてまいります。

市民の皆さま一人ひとりが感じている困りごとを少しずつ改善していくことで、将来的には「まちの空気感」も変わり、誰もが自分らしく暮らし、働き、挑戦できるまちを目指していきます。

リアルボイスから見える課題と課題へのアプローチの考え方

リアルボイス（自由記述）（第1層）を出発点に、内容を整理・分類し（第2層）、さらに「なぜ？」を繰り返し掘り下げることで、分野を超えて共通する構造的要因（第3層）の仮説に行きついた。

リアルボイスを可視化するために、内容ごとに整理・分類

・ 治安	・ 子育てしやすい	・ 家事・育児分担	・ 柔軟な働き方	・ 固定的役割分担	・ 更年期	・ 相談窓口	・ 公共交通・移動
・ 夜道の安全	・ 保育園	・ 男性育休	・ キャリア形成	・ 多様性・包摂	・ 妊娠・出産支援	・ 孤立防止・居場所	・ 緑・景観・生活環境
・ 客引き・迷惑行為	・ 病児保育	・ 仕事と育児の両立	・ 女性活躍	・ 女性への理解	・ 婦人科医療	・ コミュニティ・交流	・ 地域への愛着・誇り
・ 防犯	・ 学童・預かり	・ 介護との両立	・ 女性管理職	・ 生理	・ メンタルヘルス	・ トイレ環境	・ 文化・イベント・にぎわい
・ 子どもの安全	・ 子育て費用	・ 働きやすさ	・ 男女平等	・ PMS	・ 医療アクセス	・ 公園・遊び場	・ 挑戦・自己実現機会

リアルボイスを政策分野ごとに整理し、施策との対応関係を把握しやすくするため設定

①安心・安全に暮らせる 安全で、安心して暮らせる環境が十分ではない	②子育てしやすい 家庭責任やケア責任の負担が女性に偏っている	③自分らしく働き活躍できる キャリア形成や働き方の選択に制約がある	④健康に暮らせる 女性の健康課題への理解や支援が不足している	⑤人とつながり支え合える 孤立しやすく、つながりにくい環境がある	⑥快適に暮らせる 生活環境やサービスが使いやすく整っていない	⑦まちの魅力・活力を感じられる まちの魅力や活力を高める機会や場が不足
--------------------------------------	-----------------------------------	--------------------------------------	-----------------------------------	-------------------------------------	-----------------------------------	--

各分野の課題について「なぜ？」を繰り返し掘り下げ、背景にある共通要因を抽出

①安心・安全に暮らせる 防犯や安全面に不安があるなぜ？⇒安心して外出・活動しにくい なぜ？「これくらいは仕方ない」と受け流される	②子育てしやすい 育児負担が女性に偏りなぜ？⇒家事・育児は女性が担うものと思われている なぜ？⇒母親が家庭の中心であるべきという意識が根強いから	③自分らしく働き活躍できる キャリア形成に制約なぜ？⇒家庭責任が働き方に影響する なぜ？⇒長時間労働が前提で柔軟な働き方が選べにくい	④健康に暮らせる 生理や更年期の理解が不足なぜ？⇒言い出しにくい、我慢してしまう なぜ？⇒我慢するのが当たり前	⑤人とつながり支え合える 孤立する、相談しづらいなぜ？⇒弱音を吐いたり助けを求めにくい なぜ？⇒人に迷惑はかけられない、自分でなんとかすべきと思い込む	⑥快適に暮らせる トイレや公共交通が使いづらい なぜ？⇒利用者の声が十分に反映されてない なぜ？⇒女性の視点は優先されない、当然そうあるべきと考えられがち	⑦まちの魅力・活力を感じられる 挑戦や参画の機会が少ない なぜ？⇒多様な人が参画しにくい空気 なぜ？⇒失敗を恐れたり、目立つことを良しとしない風土がある
--	--	--	---	---	--	---

分野ごとに「なぜ？」を掘り下げると、背景に共通する“まちの空気感”が見えてくる

性別役割規範の残存（家事・育児は女性など） 「家事・育児は女性が担うべき」「母親が家庭の中心であるべき」といった意識により、女性にケア責任や家庭責任が偏ることが、様々な課題の背景となっている。	長時間労働前提の企業文化など（男性優先の働き方） 長く働くことが評価され、家庭責任を持たない働き方が標準となっている。企業文化や社会慣行が、キャリア形成や働き方の制約、両立の難しさにつながっている。	本音を言い出せない社会規範など（我慢は美德） 「人に迷惑をかけるのはよくない」「我慢するのが美德」などの空気感が、本音を言いにくく、声を上げにくい状況を生み、孤立や支援の届きにくさ、声が反映されない仕組みにつながっている。
---	--	--

分野別課題への働きかけを通じた構造変革

らしさプロジェクト ・ WomanWill企業ネットワーク（制度と現実のスキマ） ・ Woman'sリアルVOICEテラス（あなたと社会のスキマ） ・ 女性の健康支援体制構築（制度と制度のスキマ）	各局施策 安全・安心な環境づくり、子育て支援、働きやすい環境づくり、キャリア形成支援、女性の健康を支える取組、つながりや居場所づくり、快適な生活環境の整備、まちの魅力や活力を高める取組など	多様な主体との連携 企業・団体・地域・市民・医療・教育機関など
---	---	------------------------------------

女性にコンフォートなまち ～ 誰もが自分の望む人生を選択できるまち ～

家庭でも仕事でも自分の希望を選択できる	健康課題を理解され、安心して相談・受診できる	一人ひとりがつながり、支え合える地域になる	移動や外出がしやすく、快適に過ごせる	多様性が尊重され、誰もが参画できる社会になる
---------------------	------------------------	-----------------------	--------------------	------------------------

第1層
リアルボイス
（自由記述）
＝表面上の声

第2層
分野毎の課題
＝政策領域として整理・分類

第2層⇒第3層
の分析プロセス

第3層
構造的背景
「まちの空気感」

構造に働きかけるのは難しい
⇒分野別課題への働きかけ

目指す姿
（あるべき姿）